北谷町文化財調査報告書第15集

北谷町の拝所

1995年3月

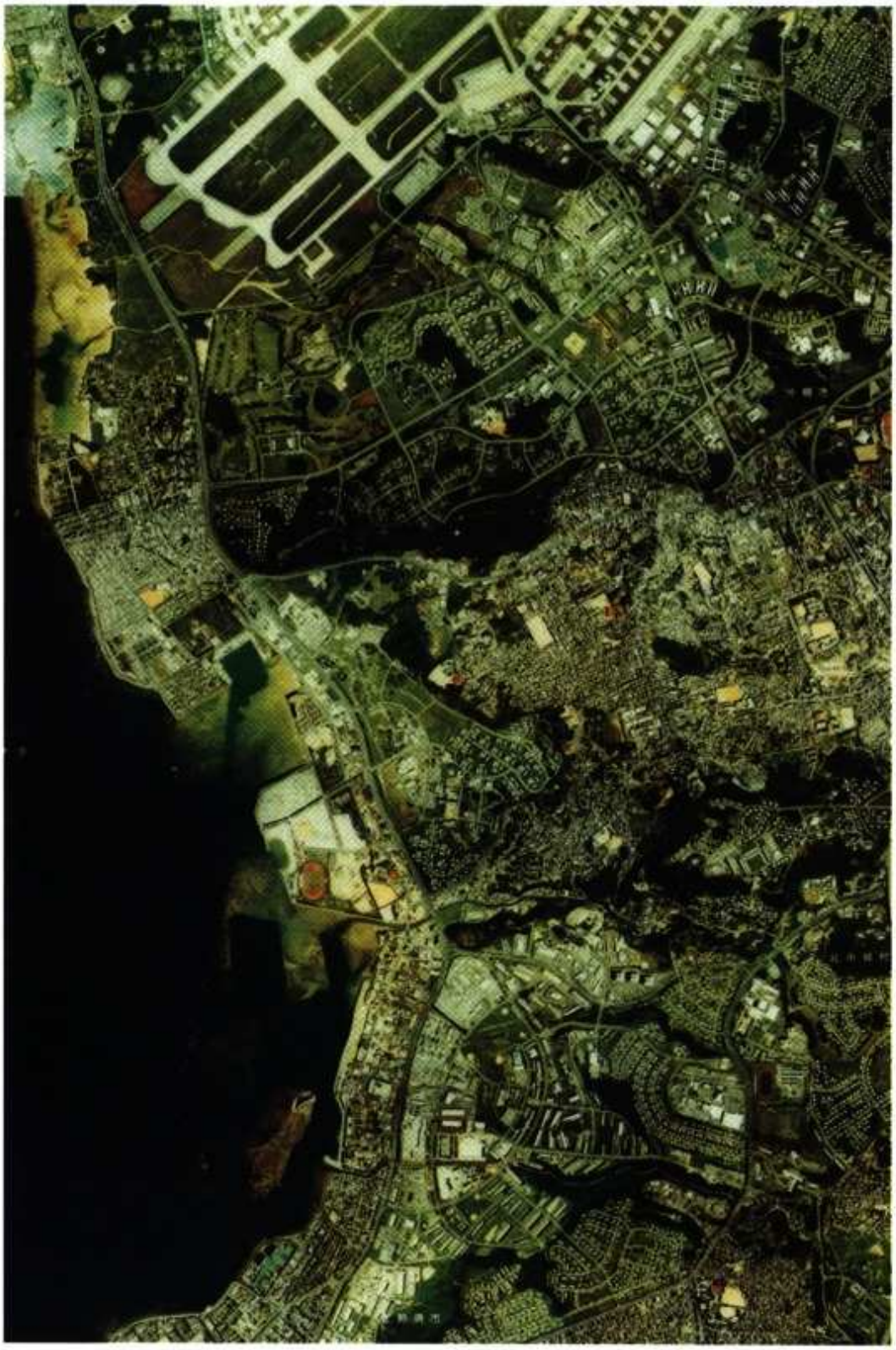
沖縄県 北谷町教育委員会

北谷町文化財調査報告書第15集

北谷町の拝所

1995年3月

沖縄県北谷町教育委員会



北谷町全域航空写真（平成５年９月現在）

砂辺のウフシー

十三香炉（北谷グスク内）

ごあいさつ

1993年度から着手してまいりました民俗文化財掘り起こし事業の一環として、このたび「北谷町の拝所」を発刊いたしました。

本冊子は、主に、戦前の拝所について、町内のご年配の方々からご教示いただいた内容をつづったものです。

ご承知のように、北谷町における集落の形態や生活様式は沖縄戦で大きく変わりました。そのうえ、信仰習俗の担い手であったノロをはじめとする神人を失い、後継者も途絶えたまま現在に至っています。また、過去の習俗を今に伝える貴重な伝承者も高齢に達し、聞き取りが不可能という状況も多々あります。それゆえ、戦前の信仰習俗の記録保存を急務として、最優先に拝所に関する聞き取り調査を進めてまいりました。しかし、戦前の集落における神役組織の把握、戦後建立された拝所の分布調査など、まだまだ多くの調査課題を残しております。

本町教育委員会では、今回の聞き取り調査を契機に、これからも、民俗文化財掘り起こし事業に努めていきたいと思っております。今後とも、町民の皆さまのお力添えをお願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、本冊子を発刊するにあたり、ご教示、ご協力いただきました町民の皆さまに対して深く感謝申し上げ、発刊のごあいさつといたします。

なお、この冊子が、町内の歴史・文化を理解する上でお役にたてれば幸いに存じます。

1995年3月

北谷町教育委員会
教育長　當山憲一

凡　　例

1　本報告書は、1992年度と1993年度の２年にわたる民俗文化財掘り起こし事業の一環として、北谷町教育委員会が行った町内における拝所分布調査の記録である。
2　各拝所の分布図に使用した２万５千分の１と５千分の１の地図は、国土地理院発行の承認を得て、北谷町役場都市計画課発行のものを使用した。
3　『琉球國由来記』に記述される拝所に関して、場所の確定ができないものについては、地図上のドットは割愛した。
4　町内の拝所やカーについては、戦前から存在していたと確認できるものについては記載したが、明らかに戦後のもの、あるいは村落単位ではなく個人的なものと判断できるものについては省いた。
5　祭祀の時期はとくに断りのない限り旧暦である。
6　調査は、北谷町史編纂室の作成したインフォーマント名簿を使用し、調査員がインフォーマントのお宅にうかがい、面接による聞き取り調査をおこなった。
7　調査・執筆は高江洲敦子が、地図は田場勝也が担当した。

調査協力者（敬称略　順序不同）

旧字砂辺戸主会　旧字平安山郷友会　旧字桑江郷友会
旧字北谷郷友会　砂辺老人会

喜友名朝永（大正８年生）	喜友名朝昭（昭和４年生）	糸数　繁夫（大正７年生）
喜屋武ウシ（明治３年生）	喜屋武繁雄（昭和２年生）	知念カマド（明治30年生）
知念　正一（昭和23年生）	知念　敏子（昭和５年生）	照屋　助吉（大正３年生）
照屋　雪子（昭和４年生）	照屋　千代（昭和３年生）	松田　カミ（明治43年生）
松田　カメ（明治38年生）	宮平　昌信（昭和13年生）	与儀　正仁（昭和７年生）
与儀　カマ（明治39年生）	渡慶次ツル（大正10年生）	照屋　春子（大正10年生）
比嘉　文清（昭和５年生）	喜屋武正一（大正２年生）	具屋　仁王（明治28年生）
島袋　順子（昭和32年生）	玉城　清松（昭和10年生）	比嘉　ヒロ（大正７年生）
座喜味次郎（昭和５年生）	津嘉山善湊（昭和27年生）	仲村　光雄（大正９年生）
宮里　春子（大正４年生）	大城　兼一（昭和15年生）	伊礼　喜市（昭和22年生）
伊礼　喜信（大正元年生）	仲村渠ナベ（大正５年生）	末吉　清信（昭和13年生）
末吉　　文（大正８年生）	新城　清一（明治42年生）	糸村　昌光（明治45年生）

残念なことに、この冊子の編集中、聞き取り調査でお世話になった喜屋武ウシさんと渡慶次ツルさん．喜屋武繁雄さんがお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。

目　　次

ごあいさつ
凡　例
はじめに
下勢頭
下勢頭の合祀所 …… 15
アシビナージー …… 15
ユシミヌ神 …… 16
ハナグスク・ヌ・メーヌカー …… 16
水ヌ神 …… 16
フェーヌカー …… 17
砂辺
ウガン …… 21
ヌール墓 …… 22
ヌール火ヌ神 …… 23
ニガン …… 24
御神屋 …… 25
トゥティクゥ …… 26
地頭火ヌ神 …… 27
伊平屋ウトウシ神 …… 28
獅子屋 …… 29
ティラ …… 30
ウフシー …… 31
ヌールガー …… 32
ンブガー …… 33
インガー …… 34
カーパタガー …… 35
砂辺ヌ前
砂辺ヌメーの合祀所 …… 39
浜川
浜川ウガン …… 43
殿之神 …… 44
龍宮神 …… 45
御神屋 …… 46

アーマンチュー …… 47
孔連廟（コーシビョウ） …… 48
浜川の井戸合祀所 …… 49
メーガー …… 49
クシヌカー …… 50
イリヌカー …… 50
イリクシヌカー …… 50
平安山
平安山の合祀所 …… 53
白露之神 …… 53
殿之神 …… 54
宇地川之神 …… 54
平安山ノロ殿内 …… 55
伊礼
殿 …… 59
獅子屋 …… 60
カーの合祀所 …… 61
字伊礼祖霊之墓 …… 62
けらまじー …… 63
桑江
旧字桑江御願所 …… 67
ニーヌファ …… 67
竹山御嶽 …… 67
トン・土帝君 …… 68
カンカーの神 …… 68
豊年神・サーターモー …… 68
びじゅる …… 68
産川 …… 68
大荒神川・村火神 …… 68
村神屋 …… 69
龍宮神 …… 70
桃原
トーバルガー …… 73
謝苅
謝苅マーチューヌジジュル …… 77

伝道
伝道集落の合祀所 …… 81
ヤマガマー …… 81
村川・チンガー …… 82
女井 …… 82
玉代勢
長老山 …… 85
玉代勢集落の合祀所 …… 86
あらんもー・土帝君 …… 86
ちぶ川ー …… 87
タメーシヒージャ …… 87
樹昌院 …… 88
北谷
北谷グスク内の拝所 …… 91
東リ御嶽 …… 91
西御嶽 …… 92
グスク火の神 …… 93
殿 …… 94
字北谷のカー合祀所 …… 95
カンタヌ井 …… 95
ウスク井 …… 96
スミムンガー …… 96
根神井 …… 96
女井 …… 96
北谷スーガー …… 97
マタジ …… 98
北谷ノロ殿内 …… 99
前城
前城村御風水神 …… 103
北谷ヌ前
アラファヌシー …… 107
まとめ …… 108
拝所一覧 …… 110
拝所分布位置図 …… 114

はじめに

この冊子は、1992年度・1993年度の2年にわたり、北谷町教育委員会が民俗文化財掘り起こし事業の一環としておこなった、町内の拝所に関する調査報告である。

調査は、『琉球國由来記』においてすでに所在の確認される御嶽や殿、火神などをふまえ、北谷・桑江・浜川・玉代勢・伝道・伊礼・平安山・砂辺の古村を対象とし、戦前、戦後を通して集落単位での祭祀が執り行われる、あるいは執り行われていた拝所に関しての聞き取り調査が主である。

とはいえ、調査対象地の集落域内には、多くの屋取集落が成立し、各々が独自の拝所を有している。しかし、あきらかに個人的な拝所と思われるものや、戦後建立されたと思われるものに関しては、今回の報告からは割愛し、古村同様に、集落単位で祭祀が行われる拝所に限り扱うことにした。

ところで、北谷町は沖縄戦から戦後の米軍基地の拡充にともなう土地接収で、町域の90パーセンが米軍用地として使用されてきた。復帰後多少の返還はあるものの、今なお町域の約57パーセンが米軍の用地に使用されている。こうした状況は、旧来の集落を移動させただけではなく、人々の精神的営みを支えてきた、御嶽やカーなどの拝所も、他地域への遷座を余儀なくされた。そのうえ、先人たちの生活や信仰習俗のあり方を知る術の年中行事も、時代の流れの中で、衰微、衰退あるいは消滅の一途をたどりつつ現在に至っている。それだけに、民俗文化財掘り起こしによる、資（史）料収集、作成の急務が痛感される。

以下、調査の結果を調査対象地である集落毎に整理し、新旧の所在地や、年中行事、司祭者、供物などを記述する。

今回の民俗文化財調査にご協力いただいた皆さまに、末筆ながら、ここで厚くお礼を申し上げたい。

下　勢　頭

下勢頭集落の合祀所（南側より）

1）下勢頭集落の合祀所（上勢頭　伊礼東原610番地）

この拝所は、BOOK BOX 北谷店の南側に位置する。以下、合祀される拝所について聞き取り調査をもとに紹介する。

①アシビナージー

かつての下勢頭集落と上勢頭集落の境界近くには、シードゥヌシーと呼ばれる岩塔があった。岩塔の北側には、下勢頭集落のアシビナーがあり、そこには、旧暦12月24日のウガンブトゥチ（御願解き）や、2月2日のニングゥチャー（クスユックイ・腰憩いともいう）などの祈願のため香炉が設けられていたという。

12月24日のウガンブトゥチには、ウチャヌク（もち）・ハナグミ（花米）・酒・白紙・線香を供え、先ず、今年一年間の神の加護に感謝を述べ、次いで、来年の豊穣、ムラ人の無病息災を祈願した。また、2月2日のニングゥチャーには、集落をメーンダカリ・クシンダカリに分け、青年組、壮年組・老年組がそれぞれのヤードゥ（宿）に集い、昼ごろには、各組で準備した御馳走（豆腐・てんぷら・肉等をお膳に盛る）を、アシビナージーに供え、ムラの有志（男性）らが豊作を祈願したという。かつての、アシビナージーの神は、現在「南無諸大明神」と陰刻した石碑を建立した合祀所

に祀る。

②ユシミヌ神（四隅の神）

下勢頭集落では、12月24日に、ムラの有志（男性）らによるウガンブトゥチ（御願解き）と称する行事が行われた。ユシミヌ神へは、この行事に祈願をおこなったという。

戦前のユシミヌ神は、屋号新平良の東側、ウグヮンニー小花城の北側、三良平良小の西側、高江洲の西側の４カ所に所在し、そこには、長さ30cm・幅15cmくらいの石製の香炉が設置されていたという。

ウガンブトゥチには、先ず、アシビナージーの拝所を拝み、それからユシミへと赴いたというが、はっきりとした拝みの順番はなかったという。現在ユシミヌ神は、アシビナージーと併せて祀られている。。

③ハナグスク・ヌ・メーヌカー

かつて、このカー（井戸）は、屋号ハナグスク（花城）の屋敷前方に在ったことから、ハナグスク・ヌ・メーヌカーと呼ばれた。現在は、「南無諸大明神」と陰刻された石碑の傍に設けてあるお通し所から、12月24日にウガンブトゥチの拝みをおこなっている。

④水ヌ神

下勢頭集落、屋号山佐久川の東側には、ムラ人が日々の野良仕事からの帰り、農具を洗う池（ウフグムイ・約100坪）が在った。人々は、この池をミジヌ神（水の神）として崇めていたという。現在は、12月24日に旧字下勢頭郷友会の有志らによるお通し拝みがおこなわれている。

フェーヌカー（西側より）

⑤フェーヌカー（ウシモー・ヌ・メーヌカー）

下勢頭集落の東南側外れ、屋号松安次嶺小の近くには、ウシモー（闘牛場）と呼ばれる広場があった。その広場の南西側に位置した井戸を、フェーヌカー、あるいはウシモー・ヌ・メーヌカーと称する。このフェーヌカー（ウシモー・ヌ・メーヌカー）は、今も戦前の姿そのまま残っている。

しかし、所在が嘉手納基地内という現況を考慮し、現在は、ハナグスク・ヌ・メーヌカーや水ヌ神同様に、12月24日のウガンブトゥチの際にお通し拝みをおこなう。

砂　　辺

ウガン（南西側より）

1）ウガン（砂辺　加志原524番地）

砂辺集落南東側に位置する杜一帯をウガンと称する。ウガンの杜のなかには、赤瓦葺の御堂が在り、なかには、ムラの守護神をまつる香炉（セメント造）が1つ設置されている。また、御堂の入口手前には、昭和63年の5月吉日に、旧字砂辺戸主会によってニービヌフニ（微粒子砂岩の石核）の石碑が建立されている。石碑の高さは75cm、幅60cm、厚さ15cmで中央に「照神」、その右側には「砂辺御嶽」と陰刻されている。

ウガンの杜一帯は、今なおセジ高い聖地として崇められている。古老の話によると、ウガンの杜一帯から草木などを採ると「ヤマサリーン」などの神の障り、あるいは、葬式や弔問からの帰りに身を浄めることなく杜に立ち入ったり、近くを通ったりすると大きなハブに追われたという。

正月2日には、ニードゥクルの家人や、旧字砂辺戸主会から正月のタティウガン（立て御願）をおこない、長寿・子孫繁栄・字民の無病息災などの祈願がおこなわれる。また、3月の清明節にはカミウシミーがおこなわれる。

ヌール墓（南側より）

2）ヌール墓（砂辺　加志原526番地）

今もなお、聖地として崇めるウガンの杜奥深くには、ヌール墓と呼ばれる拝所が所在する。この墓には、かつてノロ職にあった神人が葬られているという。

ヌール墓にも、旧字砂辺戸主会によって、大小二つの石碑が建立されている。大きな石碑は高さ88cm、幅67cm、厚さ11cmで、中央に「ヌール墓入口」と陰刻されている。小さい石碑は「ヌール之墓」と刻まれ、墓口右側に建立されている。

この墓へは、3月のムラシーミー（カミウシーミともいう）の際に、ニードゥクルの家人をはじめ、旧字砂辺戸主会の代表が詣でる。シーミー（清明）以外のムラ拝みは、今ところ確認できない。

ヌール火ヌ神（南側より）

3）ヌール火ヌ神（砂辺　村内原147番地）

ヌール火ヌ神は、ニードゥクル（根所）の東側に位置する。この拝所は、『琉球國由来記』（1713）に記載されている、「砂辺之殿」ではないかと思われる。『琉球國由来記』によれば、この殿では、麦稲四祭（2月・3月・5月・6月ウマチー）の時、砂辺地頭が花米九合、五水（泡盛）四合、神酒一完を、砂辺の村人が芋の神酒六完を供え、平安山ノロが祭祀をおこなうとある。

また、古老の話によると、戦前の5月ウマチー（稲穂祭）には、平安山ノロがこの場所を訪れ、祭祀をおこなっていたという。ところが、戦時中の平安山ノロの物故後、ノロの継承も途絶え、今ではこの拝所における祭祀は消滅した。

ニガン（西側より）

4）ニガン（砂辺　村内原124番地）

ニードゥクル（根所）北隣には、ニガンと称する拝所がある。ニガンに入ると向かって左側には火ヌ神がまつられ、右側の神棚には香炉が二つ安置されている。このニガンは、戦前まで知念家（ニードゥクル）の屋敷内北側に所在したというが、現在は知念家の屋敷から分かれ、独立している。

今のところ、ニガンの性格などについては不明な点が多いが、古老の話から、かつてニードゥクル（根所）の神仏へ供える供物の煮炊き専用のシム（台所）であったと推測される。

御神屋（南西側より）

5）御神屋（砂辺　村内原124番地）

砂辺集落の南東側、クシムイの麓に位置する砂辺のニードゥクル（根所・知念家）には、母屋とは別棟の御神屋（ウカミヤー）がある。戦前の御神屋は、知念家の一番座に設けられていたが、1954年の居住地開放後、母屋とは別棟の御神屋を設置したという。また、1993年５月には新しい御神屋が完成した。御神屋の神棚に向かって左側にはムラデーカミ火ヌ神（村火神）、中央にカミウグヮンス（神お元祖）、右側には千手観音画像が安置される。

砂辺集落の年中行事は、ニードゥクル家人と旧字砂辺戸主会を中心に、御神屋の神仏に詣でることから始まる。主な行事は、１月１日初拝み、１月７日ナンカヌシークー（世果報拝み）、１月８日千手観音への祈願、２月14日ウマチーウイミ、５月14日ウマチーウイミ、５月15日ウマチー、５月18日千手観音への祈願、６月15日ウマチー、６月24日ウワイウマチー、８月15日シーシマーシー（獅子舞）、９月18日千手観音への祈願、12月24日のフトゥチウガミなどである。

トゥティクゥ（西側より）

6）トゥティクゥ（砂辺　村内原）

トゥティクゥは、砂辺公民館北東側に位置する。『北谷町史』（第三巻・上）によれば、「クラガーシルウム（白いも）と呼ばれる芋は、根所の祖先がはじめて唐からもってきたという伝承があるので、野国総官と関係のあるトゥーティークーの神を祀らなければならぬということになり、旧字砂辺戸主会として石碑を建立することをきめた」とある。

石碑は、ニービヌフニ（微粒子砂岩）を使用した、高さ139cm、幅63cm、厚さ18cmで「トゥティクゥ」と陰刻されている。旧正月７日には、世果報拝みと称するトゥティクゥ拝みをおこなう。また、供物は甘藷と菜の花である。

地頭火ヌ神（南側より）

7）地頭火ヌ神（砂辺　村内原187番地）

琉球王府時代の地方役人（地頭）と結びついた火ヌ神を、地頭火ヌ神と称する。砂辺集落の、ほぼ中央部に位置するこの地頭火ヌ神は、かつて、砂辺の地頭職にあった仲宗根親雲上に由来すると伝えられている。

地頭火ヌ神をまつる敷地内には、ニービヌフニ（微粒子砂岩）を利用した高さ120㎝、幅60㎝、厚さ32㎝の石碑が、旧字砂辺戸主会によって建立されている。また、高さ72㎝、幅93㎝、奥行き120㎝の祠の中には、珊瑚の破片とコンクリート製の香炉が安置されている。

以前は、砂辺家（管理家）から毎月の１日・15日に拝みをおこなっていたようだが、現在は、ニードゥクルの家人と旧字砂辺戸主会を中心に、旧暦８月に拝みを行う。

伊平屋ウトウシ神（南側より）

8）伊平屋ウトウシ神（砂辺　村内原226番地）

砂辺集落の北東外れには、赤瓦をのせた、高さ174cm、幅43cm、奥行き163cmの祠が、伊平屋お通し所として設けられている。また、祠の傍には「伊平屋ウトウシ神」と刻された高さ75cm、幅43cm、厚さ14cmの石碑が建立されているが記年はない。

この伊平屋お通しでは、９月15日にシル豆腐を供えて拝みをおこなう。シル豆腐を供えるのは、「昔、神が豆（大豆）などの種子を持って降臨した地」であるとの伝承に由来するといい、神の性格については「シル（汁）からミー（身）なす神」という。

本来の司祭者は、ウミキー・ウミナイ（男女の神人・両者現欠）と呼ばれるムラの神人や、ヤクミ（行事の男性世話役）たちであったが、現在は旧字砂辺戸主会と、ニードゥクルの家人を中心におこなっている。

獅子屋（西側より）

9）獅子屋（砂辺　村内原95番地）

砂辺区公民館の道を隔てた東側に位置する獅子屋は、8月15夜（豊穣感謝祭）にニードゥクル（根所）や、ウマイー（馬場）で演じる獅子舞の獅子をおさめるための御堂である。伝承によると、字砂辺の獅子頭は尚真王から賜ったといわれ、獅子の額には「王」の文字が印されていたという。また、尚真王が砂辺に獅子を授けた謂れについては、農業に勤しむムラ人の姿に感銘を受けたためと伝えられる。

現在の8月15夜には、先ず獅子屋で拝みを行い、それが終了するとニードゥクルに赴きシーシマーシーをおこなう。その後、遊び神の象徴といわれる旗頭を先頭に公民館に向かい、公民館では、長者の大主や北谷音頭などの余興がおこなわれる。

戦前は、最初にニードゥクルに保管される旗頭をだし、その旗頭をなびかせながら獅子屋に赴き、獅子頭を出して祈願をおこなった。祈願を終えるとその場でシーシマーシーをおこない、その後、旗頭を先頭にニードゥクルに赴き、次いでウマイーへ向かったという。

ティラ（北東側より）

10）ティラ（砂辺　村内原49番地）

砂辺区公民館の西側には、ティラと呼ばれる拝所が在る。古老の話によれば、この拝所は往時の寺の跡、あるいは、「中北山時代」（1187～1322）に今帰仁按司の子千代松が、難を逃れて過ごしたティラであるという。

現在、この拝所へは旧暦９月15日に、ティラメー（テラ参り）と称した参詣を行う。ティラメーに際しては、参詣者各々が肴（肉類を除く）を詰めた重箱と、線香15本を供えて家族の健康を祈願する。

ウフシー（南側より）

11）ウフシー（砂辺　村内原147番地他）

ニードゥクル（根所）後方の小高い丘を俗にクシムイと称し、その頂上の岩をウフシーという。『北谷町海岸・海域地名』は、「クシムイは頂上の白っぽい石灰岩（ウフシー）が、夜航海する船から、光った黄金に見えたところから、タカラムイ（宝森）・クガニムイ（黄金森）という地名がつけられた」と記す。

ところで、このクシムイのウフシーでは、かつて今帰仁や伊平屋へのお通し拝みが行われていたというが、その詳細については今のところよくわからない。現在は3月のカミウシミーに、旧字砂辺戸主会やニードゥクルの家人らによる拝みがおこなわれる。

ヌールガー（南側より）

12）ヌールガー（砂辺　加志原524番地）

ウガンの南側麓にある口径173cmのカー（井戸）を、ヌールガーと呼ぶ。かつて、このカーはタキガーとも呼ばれていたが、近年になって、ヌールガーと陰刻された石碑が建立されたという。

戦前、ウマチー祈願のため「砂辺之殿」へ赴く平安山ノロは、先ず、このカーで手足を洗ってから行事に臨んだという。現在は、旧正月のハチウガミの際に、ニードゥクルの家人や旧字砂辺戸主会から拝みをおこなう。

ンブガー（東側より）

13）ンブガー（砂辺　村内原40番地）

生児の額につける水、あるいは産湯に使う水を取る井戸をンブガーと称する。砂辺集落のンブガーは、砂辺区公民館の北西側に位置し、カーの形態は、石灰岩地域によくみられる陥没ドリーネ泉である。

また、このンブガーはホーヤーガーとも呼ばれる。『北谷町海岸・海域地名』には、「大人がかがんで入れる形状になっているのでホーヤーガーとつけられた」とある。このンブガーには大小二つの石碑が立てられ、大きな碑は高さ123cm、幅68cm、厚さ19cm。小さい碑は高さ47cm、幅29cmである。ンブガーへの拝みは、旧正月元旦のハチウガミ（初拝み）の際に、ニードゥクルの家人や旧字砂辺戸主会から祈願をおこない、正月２日には、津嘉山林堂門中によってハチウガミがおこなわれる。

インガー（西側より）

14）インガー（砂辺　村内原161番地）

旱魃の際、犬が発見したと伝えられるインガーは、砂辺集落のほぼ中央部（旧字砂辺戸主会事務所の左隣）に位置する。この井戸は主にインガー一門が使用したといわれ、拝みも同一門によっておこなわれていたというが、近年になって旧字砂辺戸主会からも拝むようになったという。また、口径86cmの井戸には、「拝所・犬川之水神」と陰刻された石碑が立てられている。

カーバタガー（北側より）

15）カーバタガー（字砂辺116－1番地）

宮平昌信さん（砂辺116－2）の屋敷内には、飲料水や旧正月元旦の若水取りに使用した、口径136cmのカーバタガーがある。

現在のカーバタガーは、コンクリート製の蓋で覆われ、その上には高さ32cm、幅21cm、厚さ5cmの無銘の石碑が立てられている。かつての若水取りの風習は姿を消し、現在は、正月のハチウガミ（初拝み）の際に、ニードゥクルや旧字砂辺戸主会から祈願がおこなわれるのみである。

砂辺ヌ前

砂辺ヌメーの合祀所（北側より）

1）砂辺ヌメーの合祀所（浜川　千原210番地）

かつての砂辺ヌメー（屋取集落）の北側に位置するこの合祀所には、三つの拝所がある。向かって中央の拝所にはビジュル、左側の拝所には、砂辺ヌメーに点在した、ウィヌカー・ナカヌカー・シチャヌカー。右側の拝所は近年になって造られたもので、その性格については今のところ不明である。

戦前、砂辺ヌメーでは、旧暦2月2日と3日の2日間クシユクゥーシー（腰憩い）、あるいはニングゥチャーと称する行事をおこなった。クシユクゥーシーの初日には、豚のチラガーや果物をビジュルに供えて、男たちが豊作祈願をしたという。男たちによる豊作祈願は、簡略化されてはいるが、今もおこなわれている。また、この日は、カーへの祈願もおこなう。

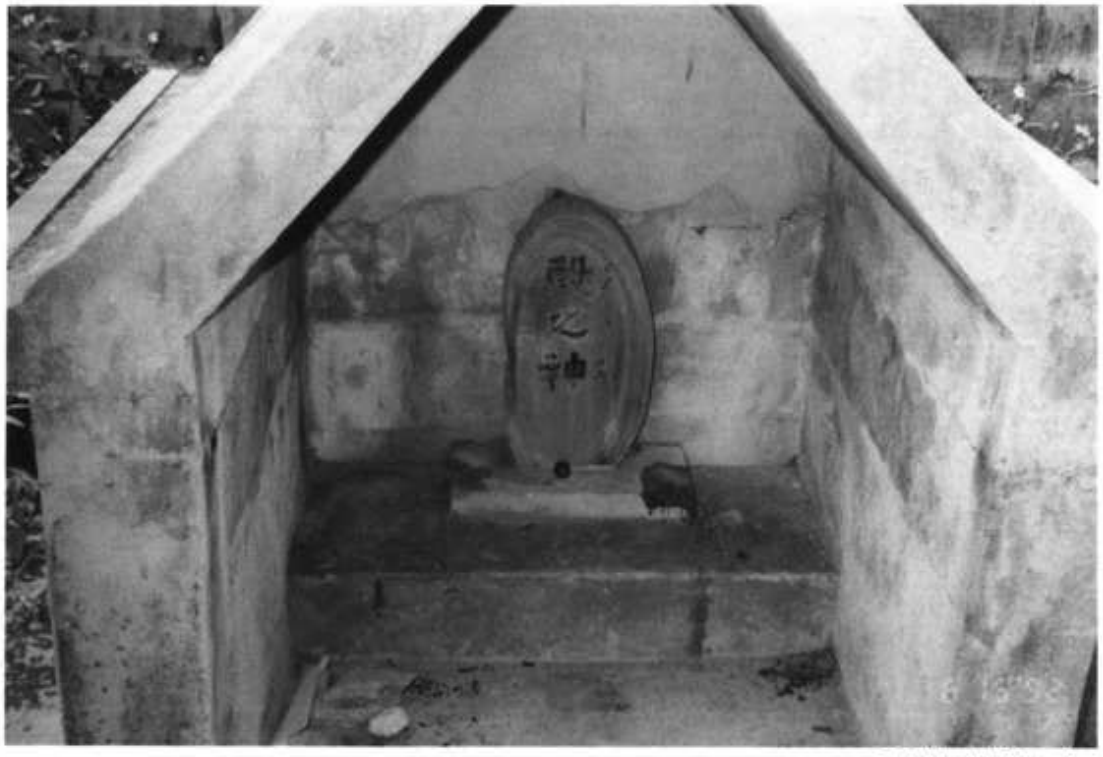
浜　　川

浜川ウガン（南側より）

1）浜川ウガン（浜川　千原47番地）

通称国体道路で知られる県道23号と、国道58号の接する浜川交差点西側には、円錐カルスト状の丘陵がある。この丘陵を「浜川ウガン」、あるいは「ヨリアゲノ御嶽」と称する。「ヨリアゲノ御嶽」との呼称から、『琉球國由来記』にみる「島森ヨリアゲノ嶽」ではないかと推測される。

また丘陵の中腹には、琉球石灰岩を利用した拝所が設けられ、その中にはセメント造の香炉が三つ安置されている。かつてこの拝所では、2月シマクサラサー（旧暦2月のニングヮチャー初日）、3月にはカミウシミー（清明節の入日）がおこなわれたという。シマクサラサーには、屠殺解体された豚の骨片や肉を供えて豊作を祈願したという。現在は、3月のカミウシーミーの際に、シマクサラサーも併せて行っている。



殿之神（南側より）

2）殿之神（浜川　千原45番地）

44-1

浜川ウガンの南側には、『琉球國由来記』にみる「濱川之殿」と思われる拝所がある。拝所はブロック造で、その中には、「殿之神」と陰刻された石碑がおさめられている。

現在、この一帯は駐車場になっているが、戦前は、2月2日のニングヮチャー、3月の龍宮拝み。また、麦稲四祭（ウマチー）などを執りおこなう祭場であったという。麦稲四祭のなかでも、5月ウマチーは平安山ノロを迎えての祭祀であったともいう。

しかし、戦後は行事も簡略化され、ニングヮチャーや竜宮拝みは、3月のカミウシーミーにまとめておこない、2月ウマチー・5月ウマチー・6月ウマチーの三ウマチーは、浜川集落の草分けの家筋で、創始者をまつる御神屋（照屋家・浜川先原82番地）から、その家人らによってウトゥシー拝みがおこなわれている。

ちなみに、「殿」一帯では、3月3日の龍宮拝みを終了した後に、酒宴を張ったことから「サングヮチャーモー」とも呼ばれる。

龍宮神（南東側より）

3）龍宮神（浜川　千原45番地）

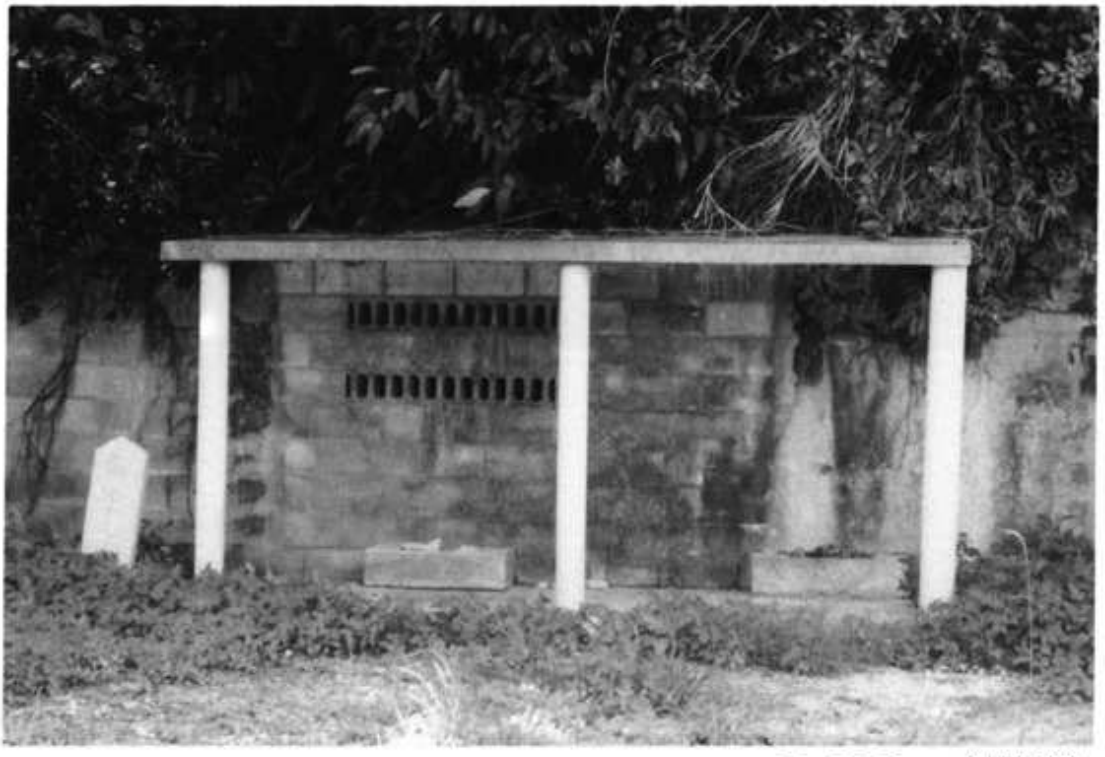
戦前の龍宮神を祀る祠は、去る沖縄戦で焼失したという。そのため浜川集落では昭和24～5年頃、戦前と同じ場所（現浜川の殿西隣）に石碑を建立し龍宮神を祀ったという。古老の話によると、浜川集落の龍宮神は、字北谷安良波原の西側海岸に連なる4つの岩礁、俗にアラファヌシーと呼ばれる龍宮神へのウトゥーシ（遥拝所）として設けられたものだという。

戦前の竜宮神への祈願（3月3日）は、海産物を詰めたウジュー（重箱）を供えておこない、その後サングッチャーモー（殿や龍宮神を祀る一帯）においてウジューを開き、共食したという。しかし、今ではその行事も姿を消し、3月の神ウシミーに拝みをおこなうのみである。

御神屋（創始者を祀る神棚）

4）御神屋（浜川80－1番地）

浜川集落の草分けの家筋で、創始者をまつる御神屋は、照屋高市さんの母屋とは別に屋敷内東側に所在する。この御神屋では、旧暦の2月ウマチー・5月ウマチー・6月ウマチーの三ウマチーの際、その家人らによってウトゥーシ拝みが行われる。



アーマンチュー（西側より）

5）アーマンチュー（浜川　千原117番地）

浜川小学校北東側には、アーマンチューガマと呼ばれる自然の洞穴が在る。今はブロックを積んで遮蔽してあるが、戦前、この洞穴の奥の方には人骨が散在していたという。現在、このアーマンチューガマへは、2月のニングヮチャーや3月のカミウシーミーの際に、供物を供えて拝みがおこなわれる。また、清明の時期になると、隣字の砂辺や、他市町村からも拝みがおこなわれるという。

孔連廟（西側より）

6）孔連廟（浜川　千原83番地）

県営砂辺団地の近くには、「孔連廟」と書いて、「コーシビョウ」と称するガマ（自然洞穴）がある。照屋春子（御神屋家人）さんによれば、浜川集落の創始者は、中国から渡来し、最初このコーシビョウと呼ばれるガマで暮らし、その後このガマで亡くなったという。

コーシビョウへは、３月清明節の入日に、豆腐やてんぷら、昆布・豚肉・かまぼこ等を詰めた重箱を供えて、カミウシーミー（ムラシーミーともいう）をおこなう。

浜川集落の井戸（北西側より）

7）浜川集落の井戸（浜川３－１番地）

戦前の浜川集落には、遠い祖先たちが使用したと伝えられる、メーガー・クシヌカー・イリヌカー・イリクシヌカーの４つのカーが在った。そのなかで、現在残っているメーガーに、他３つのカーを併せてまつる。戦前の浜川集落では、正月３日にハチウビー（初水拝み）をおこなっていたが、現在は２月２日のニングヮチャーに、初水拝みを併せて行う。以下、４つのカーを簡単に紹介する。

①メーガー

集落の前方に位置する井戸をメーガーと称した。現在のメーガーは、戦前の井戸をコンクリート造の建物で囲ったものである。このメーガーには、かつての浜川集落に点在した他３つの井戸を併せてまつる。

②クシヌカー

クシヌカーは、国道58号の拡張で、その姿を消した。戦前まで、このクシヌカーは産湯や生児の額につけるミジナリー（水撫）の水を取るンブガー（産井）として使用されたという。

③イリヌカー

集落の西方に位置したことから、イリガーと呼ばれた。

④イリクシヌカー

集落の西側後方の井戸をイリクシヌカー（西後井戸）と呼んだ。以前のイリクシヌカーは、現在の国道58号上に位置する。

平　安　山

平安山の合祀所（西側より）

1）平安山の合祀所（浜川　千原82番地）

平安山の合祀所は、浜川集落の拝所「孔連廟」の南隣に位置する。以下、合祀される「白露之神」、「殿之神」、「宇地川之神」について聞き取りをもとに紹介する。

①白露之神

戦前の平安山集落北側には、平安山ウガンと称する拝所があった。この拝所では、太陽暦の９月ごろに当たる白露の節に、ムラの有志らがシル豆腐を供えて「白露の拝み」をおこない、また、２月・３月・５月・６月のウマチーには、平安山ノロが祭祀を行ったという。

しかし、戦前までおこなわれていた四ウマチーは、戦時中のノロの物故とともに消滅し、現在は、「白露の拝み」が旧字郷友会の役員（男性）によっておこなわれているのみである。ちなみに、この平安山ウガンの神を白露之神という。

②殿之神

戦前、殿でおこなわれた主な行事は、旧暦2月2日から4日までの3日間、ムラをあげておこなわれたクスックイー（腰憩め）。また、平安山ノロを中心に行われた2月ウマチー・3月ウマチー・5月ウマチー・6月ウマチーの四ウマチーである。

3日間行われたクスックイーの際、殿へ赴くのは、初日のシマクサラサーであった。シマクサラサーはアカフーゲーシともいい、悪疫の部落侵入を防ぐ行事である。また、この行事は男性を中心におこなわれ、殿には、豚の骨片を吊るした左縄を張って、悪疫の侵入を阻止したという。

四ウマチーには、平安山ノロは白装束に身を包み、頭にはヤマカンダー（山葛）と白ハチマキをしめた出立ちで行事に臨んだという。

ところが、戦前まで行われていたこれらの行事は、戦後、衰微・衰退の一途を辿り、盛大におこなわれていたクスッキーは姿を消した。また、2月・3月・5月・6月の四ウマチーは、平安山ノロの物故後、ノロの継承も途絶え、現在は、ノロ殿内の家人らによる拝みが行われるのみである。

③宇地川之神（ウーチヌカー）

ウーチヌカーは、平安山の祖先たちが使用したと伝えられるカーである。現在の年中行事において、このカーへの独立した拝みは確認できない。がしかし、古老は、かつてウーチヌカーでは、雨乞い祈願をおこなったという。雨乞いは、先ず、男たちがウーチヌカーにおいて豚を一頭潰し、潰した豚の骨片や肉を黒い石（拝所の印）の前へ供え、準備が整うと平安山ノロを中心に祈願がはじまる。祈願を終えたノロは、雨乞いの「ウムイ」を唱えながら、ウーチヌカーの水を村人にかけながら、水の神に雨を乞うたという。

ちなみに、平安山の雨乞い祈願は、平安山ノロの祭祀域である砂辺・浜川・桑江・伊礼・平安山の五ヵ集落共同でおこなわれたという。

平安山ノロ殿内（左．火ヌ神・右．神棚）

2）平安山ノロ殿内（吉原　723番地）

かつて、平安山・浜川・砂辺・桑江・伊礼の五ヵ集落の祭祀において、指導的役割を果たした平安山ノロの火ヌ神を祀る平安山ノロ殿内は、現在、島袋克章さん（北谷町字吉原723番地）の母屋とは別に、屋敷内東側に所在する。

平安山ノロ殿内には、正面の神棚に香炉が三つ、その左側に平安山ノロ火ヌ神をまつる。戦前のノロ火ヌ神は、殿内とは別に、屋敷内北側に在ったが、戦後、ノロ殿内を新築した際に、殿内内に移したという。

現在、平安山ノロ殿内で行われる主な年中行事は、家人らによる正月のハチウガミ、5月・6月ウマチー、9月の白露の拝みなどである。

伊　　礼

殿（北側より）

1）殿（伊平　伊礼原224番地）

殿は、かつて伊礼集落北側に位置していた。現在は、蔵森（クランモー・昭和57年5月に返還され、昭和59年3月整備工事を終えた）の一角に久米島石を利用し「殿（とん）」と陰刻された石碑を建立して祀る。

『琉球國由来記』によれば、伊礼之殿では四ウマチー（2月・3月・5月・6月のウマチー）の際に、花米九合完、五水（御酒）四合を伊礼大屋子が供え、神酒二完を伊礼の村人が供え、平安山ノロが祭祀をおこなったとある。現在、この拝所で行われる年中行事は、2月15日・3月15日・5月15日・6月15日の四ウマチーと8月15日の豊穣感謝祭などである。

獅子屋（北西側より）

2）獅子屋（伊平　伊礼原224番地）

戦後、米軍キャンプ桑江として接収されたクランモー（蔵森）は、昭和57年に返還され、昭和59年には、獅子を納めるお堂や、８月15夜の豊穣感謝祭で演じられる獅子舞いの獅子が完成した。また、昭和60年には、部落民待望の獅子舞いが復活した。

伊礼集落の獅子舞いについて『蔵森・獅子舞い復活記念誌』は「今からおよそ300年前、村々に悪病が流行したため獅子をつくり、部落内を廻って病魔を追い払ったことにはじまり、それ以来伊礼村では、悪病払いと五穀豊穣、家内安全を祈願して８月15夜の日に、獅子舞いを演じるようになった」と記す。

カーの合祀所（北側より）

3）カーの合祀所（伊平　伊礼原224番地）

かつての伊礼集落には、後の井戸・蔵森井戸・蔵森南井戸・上間兼久の井戸の４つのカーが在った。そのなかでも、屋号古謝の北側の後の井戸は、戦前までンブガー（産湯を取る井戸）として使用されていたという。しかし。戦後の米軍による土地接収にともない、ンブガーをはじめ、伊礼集落の４つの井戸はその姿を失った。

ところで、『蔵森・獅子舞復活記念誌』によると、「昭和57年５月にクランモーが返還され、整備工事が行われるなか、かつての蔵森の井戸を確認し、復元した。その蔵森の井戸に、戦前の集落に点在していた残り３つの井戸を併せて祀った」とある。

これらのカー（井戸）へは、２月のニングヮチャー（豊作祈願）、９月９日の菊酒（秋の健康祈願）などの拝みがおこなわれる。

字伊禮祖霊之墓（北側より）

4）字伊禮祖霊之墓（伊平　伊礼原224番地）

クランモーの北側には、自然の岩穴をコンクリートで遮蔽した墓が在る。その墓の右側に、字伊禮祖霊之墓と刻まれた石碑（久米島石）が立てられている。

『蔵森・獅子舞い復活記念誌』には、「戦前の墓は、自然の岩穴をそのまま利用したもので、中には頭蓋骨などの人骨が散在していた」とある。

戦後、米軍による土地接収で居住地を奪われ、移動を余儀なくされた人々は、散々する人骨を謝苅に設けた仮墓に安置した。そして、昭和59年には、元岩穴が整備されたため、その年の４月に、遺骨を移して安置したという。

けらまじー（南東側より）

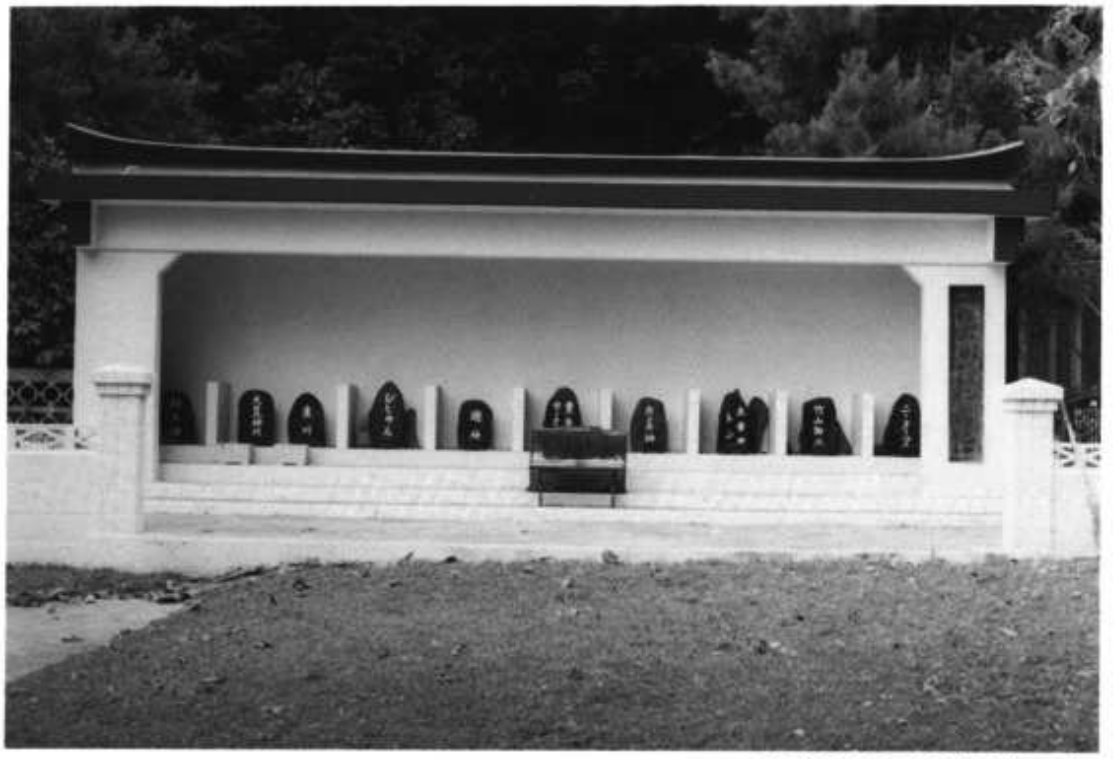
5）けらまじー（伊平　伊礼前原36－4番地）

宮城区の埋立地、県営美浜団地の北東側には、けらまじーと称する拝所がある。この拝所は、近くの海岸線にあった岩を祀ったものであったが、埋立地造成の関係で、この場所に移動したという。

『北谷町海岸・海域地名』によれば、「戦前は陰暦3月3日、キラマジーの手前でゲーン（すすき）を結わえた輪をくぐってから、けらまじーを拝した」とある。また、『蔵森・獅子舞い復活記念誌』は、「そこは邑の拝所で2月に祈願がおこなわれていた」と記す。

1992年までは、皇紀2641（西暦1981）年旧5月吉日酉年と陰刻された祠が建立されていたが、1993年7月吉日には、新たにコンクリート造の祠が設けられた。

桑　　江



旧字桑江御願所（西側より）

1）旧字桑江御願所（桑江　小掘原279番地）

旧字桑江御願所は、"Camp Kue" 内、ナルカー（奈留川）原の水源地近くに所在する。以下、合祀される拝所を、向かって右側から順に紹介したい。

①ニーヌファ

ニーヌファは、現在の御願所に位置する。座喜味次郎さん（字桑江）によれば、支那事変（日中戦争）の頃、竹山御嶽の神を遷して祀ったという。

戦前、このニーヌファへは、ムラの神人やヤクミ（役目・交替制の行事世話役）らによって、一年間の神事開始を告げるハチウガミ（初拝み）が行われ、その際には、村人の無病息災や豊作の祈願なども併せておこなったという。現在は、旧字桑江郷友会のヤクミ数名によって、村の安泰や村人の健康祈願が行われている。

②竹山御嶽

桑江公園内に所在したガマを竹山御嶽と称したようである。伝承によれば、谷茶大主に攻められた、北谷グスクの大川按司が逃げ延びた所で、それに由縁する御嶽であるという。

③トン・土帝君

戦前の桑江集落南側に位置していた。『琉球國由来記』によれば、トンでは平安山ノロが四ウマチー（2月・3月・5月・6月のウマチー）をおこなうとある。

また土帝君では、戦前まで2月1日から3日間ニングヮチャーと称する行事が行われ、その際は、シンムイ（お膳に大根や豆腐などを盛ったもの）を供えて、豊作の祈願を行ったという。しかし、現在では、旧字郷友会の役員数名による拝みが行われているのみである。

④カンカーの神

戦前の桑江集落、屋号山ヒヂの北側には池があった。その池の近くにはカンカーの神が祀られ、旧暦の12月7日には、カンカーと称した悪霊侵入防除儀礼をおこなったという。カンカーの行事には、先ず池で豚を屠殺解体し、その骨片や肉をヒジャイナー（左縄）に挟み、村の入口に吊り下げたり、カンカー神に供えたりして、悪霊や悪疫の村落内への侵入を阻止した。残りの豚肉はその場で煮炊きされ、村中の老若男女が共食したという。現在は、かつてのような行事は省略され、郷友会の役員数名による拝みが行われているのみである。

⑤豊年神・サーターモー

かつての桑江集落南側（現在の“Camp Kue”内、米軍病院の裏側）には、サーターヤーが在ったため、この一帯をサーターモーと呼んでいた。そこには豊年神・遊神が祀られ、旧暦8月15日の「十五夜の遊び」には、豊作を感謝する唄や踊りが奉納されたという。現在は、フチャギや果物などを供えて、郷友会の役員による祈願がおこなわれる。

⑥びじゅる

戦前は、北谷トンネル（現在の国道58号線、謝苅交差点南側）北西側に位置していた。『北谷町史』には、「例祭はクスッキーであった。（中略）このビジュルは、普天間権現とクサイ（特別な関係）といわれていた」とある。

⑦産川

子どもの誕生に際し、ンブミジ（産湯）を取る産川（ンブガー）は、戦前の桑江集落南側に位置していた。

⑧大荒神川・⑨村火神

大荒神川と村火神については、今のところ、その性格などについては不明である。

村神屋（遠祖を祀る神棚）

2）村神屋（吉原1046番地）

桑江集落の村神屋は、現在、大城兼一さん（字吉原1046）宅の一番座に設けられている。神棚は三つに区分され、向かって右側には、千手観音画像、中央の神棚には、神格化された遠祖をまつる香炉が八つ置かれている。左側の床には、大川按司、与那城王子、古波蔵親方の三つの香炉が安置されている。

現在、この村神屋でおこなわれる行事は、旧暦の正月１日の初拝みを皮切りに、２月15日の２月ウマチー・春の彼岸拝み・２月29日のヒーマーチ拝み・３月15日の三月ウマチー・５月13日のウタ紙・５月15日の五月ウマチー・６月15日のウマチー・６月24日のヒーマーチ拝み・７月17日のエイサー・８月15日の十五夜遊び・秋の彼岸拝み・９月９日のチク酒・９月29日のヒーマーチ拝み・12月９日のカンカ拝み・12月20日のフトゥチ拝み。以上の行事が、旧字桑江郷友会の役員らによって行われる。

龍宮神（北側より）

3）龍宮神

北谷公園入口北東側に、龍宮神をまつるセメント造の祠がある。中には神体として、ニービヌフニ（微粒子砂岩の石核）が3つ安置されている。

戦前、この龍宮神へは年末のフトゥチウガンや、正月の初拝み。また、5月5日のハーリー（競漕）の後には、ニーヤー（根屋）の家人とともに、桑江ヌ前や桑江ヌ中（屋取集落）のフニムチャー（船主）が拝んでいたという。

現在は、5月の吉日に竜宮拝みと称して、旧字桑江郷友会から拝みをおこなう。供物は魚貝類などの海の幸である。

桃　　原

トーバルガー（北西側より）

1）トーバルガー（吉原　西上原405番地）

トーバルガーは、栄口区中央通りの入口南側（現謝苅区バス停留所北東側）に位置する。「井泉・水の信仰」（比嘉聡氏・沖縄国際大学社会学科卒業論文）には、「この井泉は、崎門門中が水道が普及するまで生活用水として使用し、若水や産水が汲まれた」とある。また、西桃原・東桃原の屋取からは、2月2日と3日にニングヮチャー（クスックイともクスユクヮーシーとも称す）がおこなわれ、初日には、ウチャヌク・酒・花米・線香を供えて、男性による豊作の祈願を行ったという。

謝　　苟

謝苅マーチューのビジュル（南東側より）

1）謝苅マーチューのビジュル（吉原　謝苅原72番地）

北谷町立第一保育所南隣に位置する。『北谷町史』は、謝苅マーチューのビジュルについて、「屋取集落の謝苅には、昭和の初期までビジュルはなかった。２月２日のクスユックイ（腰憩い）には、山内のビジュルを拝みに行った。昭和13年に、そこから謝苅原72番地にビジュルをウンチケー（お迎え）して拝むようになった。祭日は旧暦２月２日・８月15日・９月９日・12月24日である」と記す。

伝　　道

ヤマガマー（北側より）

1）伝道集落の合祀所（大村　玉代勢原14番地）

合祀所は、キャンプ瑞慶覧内長老山に位置する。ここには、伝道集落の拝所及びカーが祀られる。以下、合祀されている拝所を紹介する。

①ヤマガマー（山洞・御風水神）

かつての伝道集落の中央部に位置する洞穴を、ヤマガマーと称した。戦前までこの洞穴には、黒い石を利用した厨子甕が4基安置されていたという。現在は、「山洞・御風水神」と陰刻された石碑がおさめられ、2月のニングヮチャーの際に拝みが行われる。

チン川・村川（北側より）

②村川・チン川ー

ヤマガマー（洞穴）の前方に位置した井戸を村川、あるいはチンガーと呼んだ。戦前、このカーはンブガーとして使用されたという。現在は、ヤマガマー同様に、2月のニングゥチャーに拝みをおこなう。

③女井

戦前の伝道集落、屋号ウフヤの西側に所在した井戸を女井（イナグガー）と称した。伝承によると、この女井は、北谷グスクのウナジャラ（按司夫人）が洗髪や水浴に使用した井戸だったという。この女井へは、伝道のウフヤ門中から、正月3日のハチウビーと、2月のニングゥチャーの際に拝みを行う。また、北谷ノロ殿内からは、正月3日のハチウビーと、8月11日のカーウビーの際に拝みをおこなう。

玉　代　勢

長老山（北西側より）

1）長老山（大村　玉代勢原14番地）

長老山は、米軍キャンプ瑞慶覧内に位置する。『北谷村誌』によれば、ここは、「沖縄にはじめて臨済宗妙心寺を伝えた、北谷長老（南陽紹弘禅師）をはじめとして、樹昌院歴代の住職を葬った墓所」だという。また『北谷町史』（第三巻・上）は、「琉球臨済宗の中興の祖といわれる南陽和尚の墓所を長老山と呼ぶ」と記す。現在ここでは、旧暦の９月15日に、長老祭が町をあげて盛大におこなわれる。

あらんもー・土帝君（北側より）

2）玉代勢集落の合祀所（大村　玉代勢原14番地）

この合祀所は、長老山の一角に所在する。ここには、かつての玉代勢集落の拝所、「あらんもー（新根毛）」、「土帝君」、「タメーシヒジャー（樋川）」、「チブ川」が祀られる。

①あらんもー（新根毛）・土帝君

戦前の玉代勢集落南西側、長老山の東側には小高い杜があり、その杜をあらんもーと呼んだ。またそこには、トゥーティークが祀られていたという。『北谷町史』は、「旧暦の9月9日のクングヮチクニチにはトゥーティークー拝みをおこなった」と記す。

古老の話によると、10月のタントゥイ（種子取）の日には、村中の子どもたちがあらんもに集まり、持参したおにぎりを食し健康を願ったという。現在は、〈新根毛・土帝君〉と陰刻された石碑（ニービヌフニ）を安置して祀る。

ちぶ川・樋川（北側より）

②ちぶ川

かつての玉代勢集落東側、現在キャンプ瑞慶覧内の軍消防署南側の谷地に位置する。

このチブ川は産湯や、水撫（生児の額につける）での水を取るカーであったことからンブガーとも呼ばれたという。現在もカーの形跡は残っている。チブガーへは、正月3日と8月11日に、カーウビーと称して北谷ノロ殿内の家人らによる拝みが行われている。

③タメーシヒージャー（樋川）

玉代勢集落の中央部、あらんもーの北側には、湧泉に樋をかけて水を落とすヒージャーがあり、このヒージャー（樋川）を、タメーシヒージャーと呼んだ。伝承によると、このヒージャーは、玉代勢の村立ての際に神々が使用したカーだといい、そのため、神ガーラだともいう。また、玉代勢集落では、ヒージャーを境にして、集落の東側をイーンダカリ、西側をシチャンダカリと呼んだ。現在は、チブ川と同様に正月3日と8月11のカーウビーの際に、北谷ノロ殿内の家人らが拝みを行う。

樹昌院（南側より）

3）樹昌院（吉原　西上原360－8番地）

沖縄職業能力開発促進センター南側に位置する。樹昌院について、『北谷町史』は、「かつて樹昌院は、玉代勢村の外れにあった。明治23年当時法灯も絶えていて、無住の寺であったのを岱嶺（たいれい）和尚が再建した」とある。同じく町史によると、「沖縄戦後また無住の状態が続いていたが、1976年に字吉原に再建され、喜瀬守禅師が正住職となり、今日におよんでいる。現樹昌院の本尊は釈迦座像（木像）、右脇士が達磨大師（木像）、左脇士が地蔵菩薩（木像）である」と記す。

北　　谷

東リ御嶽（南側より）

1）北谷グスク内の拝所（大村　城原369番地）

かつての北谷グスク内には、「東リ御嶽」、「西御嶽」、「殿」の三つの拝所があった。以下、それらの所在地や、祭祀について聞き取り調査をもとに紹介する。

①東リ御嶽

東リ御嶽は戦後、キャンプ瑞慶覧内の長老山に遷座されたが、1993年12月に、北谷グスク三の郭南側に拝所が再建され、同年12月に再びグスク内に遷して祀った。『北谷町海岸・海域地名』（P13）の記述から、この東リ御嶽は『琉球國由来記』にみる「ヨシノ御嶽・神名テンゴノ御イビ」ではないかと推測される。

末吉文さん（北谷ノロ殿内家人）によると、この東リ御嶽には戦前まで、山原クボー御嶽（今帰仁のクバ御嶽と思われる）へのお通し所があったという。現在の東リ御嶽における主な行事は、5月ウマチーと6月ウマチーである。

1993年度の両ウマチーでは、神酒の代用として市販のにごり酒を供えて、北谷ノロ殿内の家人や旧字北谷郷友会による祈願がおこなわれた。

西御嶽（西側より）

②西御嶽（十三香炉　大村城原383－1番地）

戦後キャンプ瑞慶覧内に合祀されていたが、1993年12月に北谷グスク西端丘陵部に再建された。この御嶽について『北谷町海岸・海域地名』は、「『琉球國由来記』に記載される城内安室崎の御嶽・神名イシラゴノ御イベと思われる」と記す。

現在、この西御嶽には、13個の香炉が安置されている。人々は、その香炉に因み、この御嶽のことを「十三神」、あるいは「十三香炉」と呼んでいる。13個の香炉について北谷ノロ殿内の家人は、十二支とそれを一つに結ぶ火ヌ神であるという。

ところで戦前、この西御嶽への出入りはヌールだけが許され、一般の女性や男性の立入は堅く禁じられていたという。現在、この御嶽へは、5月ウマチー・6月ウマチーの際に拝みが行われているが、戦前は、西御嶽に直接赴いて拝みを行うのは、北谷三箇（北谷・伝道・玉代勢）が合同で行う北谷大綱引き（13年マールの寅年6月25日）に先立っての、メーウガミ（6月23日の綱引き安全祈願）の日だけであったという。普段、立入を堅く禁じるこの御嶽もその日ばかりは、村の三役をはじめ一般の女性や、男性の入場を許したという。

グスク火の神

③グスク火の神

この火の神は、北谷グスク西端丘陵部、西御嶽南側ふもとに位置する。伝承によると、西御嶽に入る前には、先ずここを拝んだという。

殿（西側より）

④殿（大村城原369番地）

かつて、北谷グスク内に所在した「殿」も、「東り御嶽」や「西御嶽」とともに、戦後は、キャンプ瑞慶覧内の長老山に遷座したが、1993年12月に、北谷グスク三の郭南西側に再建された。この殿は『琉球國由来記』にみる「北谷城内之殿」ではないかと推測される。『由来記』は「北谷城内之殿」について、次のように記す。

北谷城内之殿　　北谷村・玉代勢村

稲二祭ノ時、花米九合完、五水八合完（此時、朝神、夕神二度）神酒一完（此時、惣地頭供物、按司同断）花米九合完、五水四合完、（此時、朝神、夕神二度）神酒一完（玉代勢地頭）花米九合完、五水六合完（此時朝神、夕神二度）、伝道大屋子・津嘉山大屋子・古味大屋子。シロマシ一器、神酒壱完（麦。玉代勢村百姓中）神酒三完（麦。北谷村百姓中）供之。北谷巫ニテ祭也。

上記の内容から、北谷城内之殿では稲穂祭・稲収穫祭の二祭に北谷ノロが祭祀を行い、しかも、地方役人の地頭や大屋子からの供物の提供があったことがわかる。現在は5月・6月ウマチーの際、神酒の代用として、市販のにごり酒を供えて、北谷ノロ殿内の家人や旧字北谷郷友会による拝みが行われる。

字北谷のカー合祀所（北側より）

2）字北谷のカー合祀所（大村　玉代勢原14番地）

キャンプ瑞慶覧内の長老山に位置する。この合祀所には、かつての北谷集落に点在した、カンタヌ井・ウスク井・スミムン井・根神井の4つのカーと、女井（伝道集落）が祀られる。現在、これらのカー（井戸・湧泉）へは、正月3日のハチウビー、8月11日のカーウビーの際、北谷ノロ殿内の家人による拝みがおこなわれる。以下、合祀されるカーを簡単に紹介する。

①カンタヌ井

戦前の北谷集落東側の東表原には、カンタヌカーと呼ばれるカーがあった。このカーは、北谷村の始祖（ハダカ世）が使用したカーと伝えられる。

②ウスク井

このウスク井は、かつての北谷集落のメーヌハルに位置し、創始者たちが使ったと伝えられる。また、このカーの手前にあった田圃をウスクガーと称するという伝承もある。

③スミムンガー

かつての北谷集落、屋号川ヌ端の近くに、このスミムンガーは在った。この井戸は、ムラの女性神役や川ヌ端の家人らが、糸の泥染めに使用したことからスミムガーと呼ばれるようになったという。

④根神井

根神井は、戦前の北谷集落、屋号大城安里と前城津嘉山の屋敷境界付近、西側に所在した。この井戸は、北谷ノロをはじめ、ムラの女性神役たちの斎戒沐浴に使用されたと伝えられている。

⑤女井

女井はヌルシンガー（ノロ神のカー）とも呼ばれる。このカーは、かつて伝道集落の西側に所在したが、現在は北谷集落のカー合祀所に祀る。（伝道のカー参照）

北谷スーガー（塩川・西側より）

3）北谷スーガー（大村　塩川原380番地）

国道58号、北谷交差点北東側、北谷グスク西側麓に所在する井戸を北谷スーガー（塩川）と称する。このカーは現在、コンクリート造の建物のなかに保存され、口縁部、胴部とも半円形をしている。また、このカーは、グスクグサイニーガーとも呼ばれていたという。戦前までは、字北谷の人々が、生活用水や正月の若水を取るカーとして使用したという。現在は、正月３のハチウビーと、８月11日のカーウビーの際に北谷ノロ殿内の家人による拝みが行われる。

マタジ（東側より）

4）マタジ（北谷　西表原388番地）

かつての北谷集落西側外れの（現北谷ノロ殿内北側の河口）マタジ水門近くには、琉球石灰岩の大きなシー（岩）が在り、そこから湧き出る豊富な水で池を成していたという。その湧泉や池をマタジウカー、あるいはマタジ竜宮ーと呼んだ。伝承によれば、村落祭祀の中心的役割を果たした北谷ノロは、このカーで斎戒沐浴してから、祭祀に臨んだという。また、北谷ノロはアガリ世（知念・玉城）や今帰仁、慶良間へのウトゥーシもこの場所から行ったという。

ところで、このマタジ竜宮は拝所としての機能を失っていたが、1987年北谷ノロ殿内の家人を中心に再建され、同時に5月4日の竜宮拝みも復活した。

北谷ノロ殿内（南側より）

5）北谷ノロ殿内（字北谷２丁目19番２号）

北谷ノロ殿内は、1990年12月に北谷町字吉原1106番地から、字北谷２－19－２（旧ハンビー飛行場跡地の造成地）に移転した。現在の北谷ノロ殿内に入ると、向かって左側にノロ火ヌ神が祀られている。中央の神棚は二つに区切られ、左側には今ヌル（ノロ）・中ヌル・先ヌルのクバ扇と香炉、右側には、クニデーとウサチカニマンの香炉が祀ってある。右側の神棚には、カンティンオー（関帝王）の掛軸と香炉がある。現在のノロ殿内で行われる主な行事は、５月14日・６月14日のウタカビ、５月15日・６月15日のウマチー、７月17日の17日遊びなどである。

前　　城

前城村御風水神（北側より）

1）前城村御風水神（大村　玉代勢原14番地）

現在、字北谷のカーの合祀所（キャンプ瑞慶覧）西隣に位置する。今のところ、その性格などについては不明。

北谷ヌ前

アラファヌシー（南側より）

1）アラファヌシー（北前　安良波原132－2番地）

屋取集落北谷ヌ前（現北前区）が拓ける安良波原の海岸線に突出した岩と、沖に連なる岩礁を併せてアラファヌシー、あるいはアラファリューグと称する。『北谷町海岸・海域地名』には、「戦前、旧暦5月4日に供物（豚肉の煮たもの）を供え、先ず海岸線に突出した岩（メーヌシー）の下からナカヌシーを拝み、その後アラファバーリーをおこなった」とあるが、現在は、2月1日のニングヮチャー、5月4日の竜宮拝みに北谷ノロ殿内の家人らによる拝みが行われるのみである。

ま　と　め

北谷町の拝所について、主に拝所名と所在地、年中行事、祭祀者に視点をおいて調査をおこなった。その結果、105箇所の拝所を確認しえた。そのうち、古老の証言をもとに、村落単位の祭祀が行われていたと思われる81の拝所を本冊子で紹介した。以下、調査の成果を略述してまとめとしたい。

『琉球國由来記』にみる拝所については、時代の流れによる拝所名や神名の変遷で、具体的には十分に言及することができなかったが、『琉球國由来記』記載の①ヨシノ嶽②城内安室崎之嶽（①、②北谷村）③オヤギヤクイ君ガ嶽（平安山村）④島森ヨリアゲノ嶽（濱川村）⑤伊平屋森（砂邊村）の御嶽のうち、現在それと思われる、東リ御嶽（ヨシノ嶽）、西御嶽（城内安室崎之嶽）、浜川ウガン（島森ヨリアゲノ嶽）の3御嶽を確認し得た。

また、火神については、①北谷巫火神（前城村）②平安山巫火神（平安山）の2箇所が記されている。現在の北谷ノロ殿内、平安山ノロ殿内に祀られる火ヌ神が『琉球國由来記』にみる火神ではないかと推測される。

さらに、殿については、①北谷城内之殿（北谷村）②桑江之殿（桑江村）③ミヤマシ原之殿（桑江村）④平安山之殿（平安山村）⑤伊禮之殿（伊禮村）⑥濱川之殿（濱川村）⑦砂邊之殿の7つの殿がみられる。そのうち今回は、6箇所（ミヤマシ原之殿は未確認）を確認しえた。しかし、それらは必ずしも推測の域を出るものではない。

司祭者については、かつてのノロをはじめに、ムラの神役に関する調査に終始し、村落祭祀へのユタ的職能者の関与や、旧字郷友会の男性を中心とした祭祀組織など、現況の司祭者についての調査欠落が大きい。

ところで、集落の形態や、生活様式の変化が著しい現在、これらを把握することはかなり難しいことではあったが、居住地開放後（1954年）の砂辺集落における精力的な拝所の再建や、1982年に聖地を返還させた伊礼集落。また、北谷グスク内の拝所の再建（1993年）と、常に、拝所の再建や、それに関しての人々の熱意に圧倒されながらの調査であった。できるだけ、人々の熱意を伝えられるような記述に努めたつもりではあるが、力量不足から、十分に調査結果をまとめることができなかった。今後は、さらに聞き取り調査をすすめ、資（史）料の蓄積につとめたい。

参 考 文 献

『琉球國由来記』(1713年)
『北谷村誌』(1961年　北谷村役場)
『北谷町海岸・海域地名』(1985年　北谷町役場)
『蔵森・獅子舞い復活記念誌』(1985年　旧字伊礼蔵森獅子舞い復活推進委員会)
『北谷町史・第三巻民俗上』(1993年　北谷町役場)
「井泉・水の信仰」(1993年　沖縄国際大学社会学科卒業論　文比嘉聡)

拝所一覧

☆印は本冊子記載

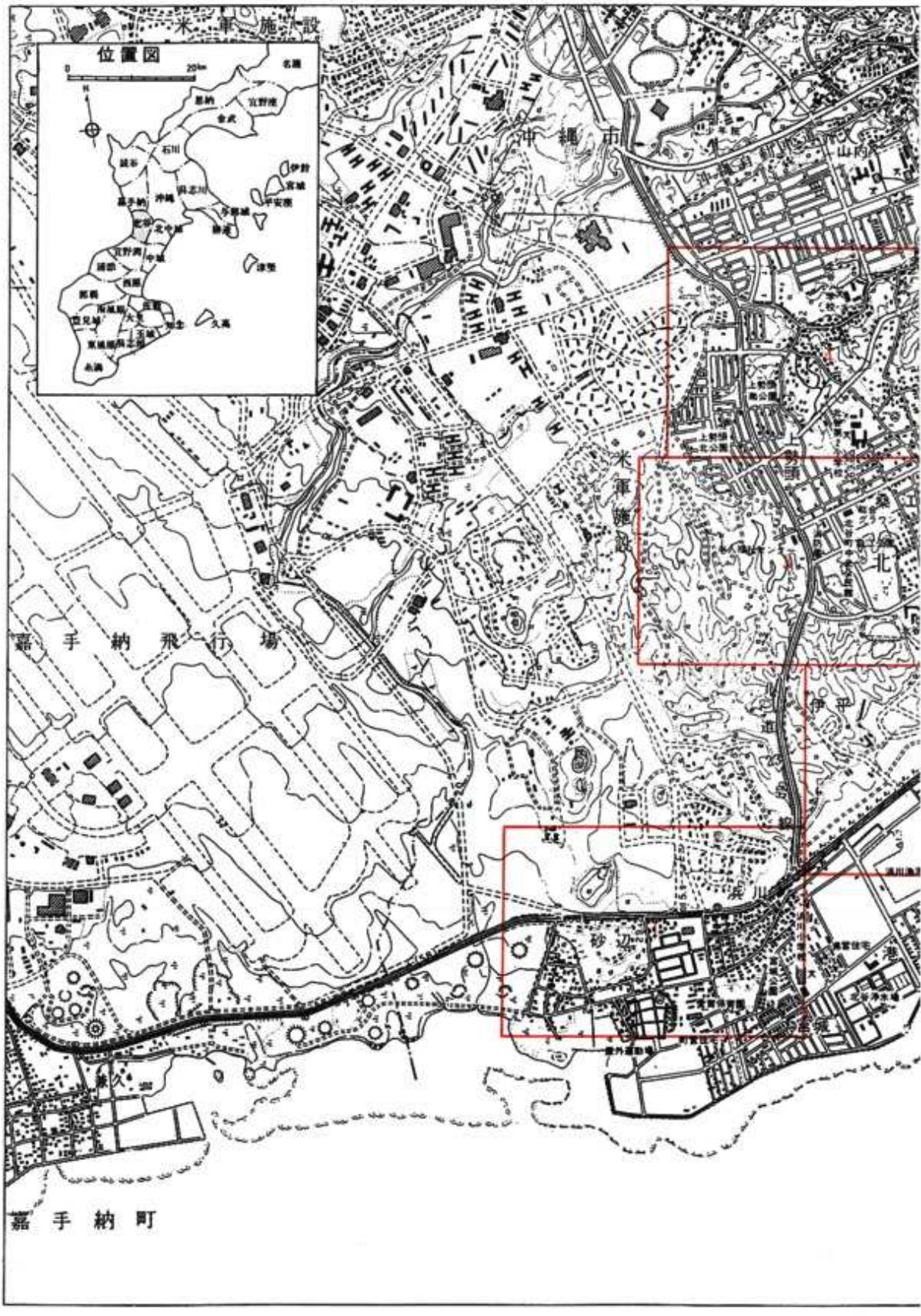
番号	拝所名	所在地	備考
	〈上勢頭〉		
001	シーグァー	平安山上勢頭原273番地	
002	いなみ小ぬかー	伊礼東原527番地	
003	みーがー	伊礼東原527番地	
004	ふえぬかー	伊礼東原527番地	
005	いーま小ぬめーぬかー	伊礼東原527番地	
006	いなみぬかー	伊礼東原527番地	
007	かー小	伊礼東原527番地	
	〈下勢頭〉		
☆008	アシビナージ	上勢頭伊礼原610番地	
☆009	ユシミヌ神	上勢頭伊礼原610番地	
☆010	ウシモー．ヌ．メーヌカー	上勢頭伊礼原610番地	
☆011	ハナグスク．ヌ．メーヌカー	上勢頭伊礼原610番地	
☆012	水ヌ神	上勢頭伊礼原610番地	
	〈砂辺〉		
☆013	ウガン	砂辺加志原524番地	
☆014	ヌール墓	砂辺加志原256番地	
☆015	ヌール火ヌ神	砂辺村内原147番地	砂辺之殿
☆016	ニガン	砂辺村内原124番地	
☆017	御神屋	砂辺村内原124番地	
☆018	トゥティクゥ	砂辺村内原	
☆019	地頭火ヌ神	砂辺村内原187番地	
☆020	伊平屋お通し	砂辺村内原226番地	
☆021	獅子屋	砂辺村内原95番地	
☆022	ティラ	砂辺村内原49番地	
☆023	ウフシー	砂辺村内原147番地	
☆024	ヌールガー	砂辺加志原524番地	

☆025	ンブガー	砂辺村内原40番地	
☆026	インガー	砂辺村内原161番地	
☆027	カーパタガー	字砂辺116－1番地	
028	竜宮神	砂辺村内原1番地	
029	遊び神		
030	唐港		
031	按司墓		
032	東門毛	砂辺村内原106番地	
	〈砂辺ヌメー〉		
☆033	ビジュル	浜川千原210番地	
☆034	ウィヌカー	浜川千原210番地	
☆035	ナカヌカー	浜川千原210番地	
☆036	シチャヌカー	浜川千原210番地	
037	性格不明の拝所	浜川千原210番地	
	《浜川》		
☆038	浜川ウガン（御嶽）	浜川千原47番地	島森ヨリアゲノ嶽
☆039	殿之神	浜川千原45番地	濱川之殿
☆040	竜宮神	浜川千原45番地	
☆041	御神屋	浜川80－1番地	
☆042	アーマンチュー	浜川千原117番地	
☆043	孔連廟（コーシビョウ）	浜川千原83番地	
☆044	メーガー	浜川3－1番地	
☆045	クシヌカー	浜川3－1番地	
☆046	イリヌガー	浜川3－1番地	
☆047	イリクシヌカー	浜川3－1番地	
048	火ヌ神	浜川千原45番地	
	〈喜友名小前・後〉		
049	ゆしみぬ神	浜川千原84番地	
050	ゆがふの神	浜川千原84番地	
051	うぶ井戸	浜川千原84番地	
	〈平安山〉		
052	平安山ウガン	伊平赤道原815番地	オヤギヤクイ君ガ御嶽

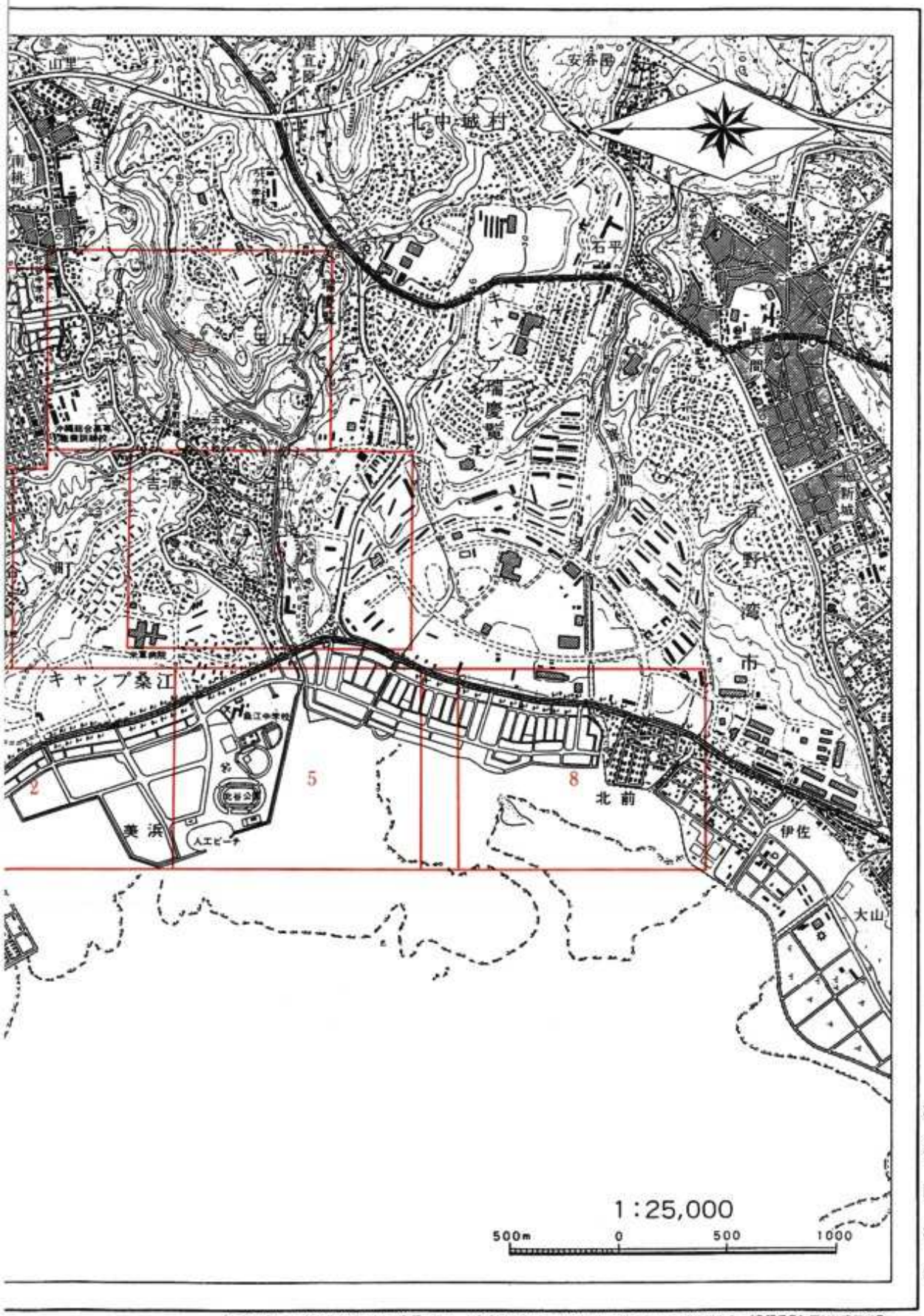
☆053	白露之神	浜川先原82番地	
☆054	殿之神	浜川先原82番地	平安山之殿
☆055	宇地川の神	浜川先原82番地	
☆056	平安山ノロ殿内	吉原723番地	平安山巫火神
	〈伊礼〉		
☆057	殿	伊平伊礼原224番地	伊禮之殿
☆058	字伊禮祖霊之墓	伊平伊礼原224番地	
☆059	獅子屋	伊平伊礼原224番地	
060	火ヌ神と土帝君	伊平伊礼原224番地	
☆061	けらまじー	伊平伊礼前原36－4番地	
☆062	後の井戸	伊平伊礼原224番地	
☆063	蔵森南井戸	伊平伊礼原224番地	
☆064	蔵森井戸	伊平伊礼原224番地	
☆065	上間兼久の井戸	伊平伊礼原224番地	
	〈桑江〉		
☆066	ニーヌファ	桑江小掘原279番地	
☆067	竹山御嶽	桑江小掘原279番地	
☆068	トン・土帝君	桑江小掘原279番地	
☆069	カンカー神	桑江小掘原279番地	
☆070	豊年神・サーターモー	桑江小掘原279番地	
☆071	遊神	桑江小掘原279番地	
☆072	びじゅる	桑江小掘原279番地	
☆073	産川（ンブガー）	桑江小掘原279番地	
☆074	村火の神	桑江小掘原279番地	
☆075	大荒神川	桑江小堀原279番地	
☆076	村神屋	北谷字吉原1046番地	
☆077	龍宮神		
	〈桑江ヌメー〉		
078	ビジュル		
	〈桃原〉		
☆079	トーバルガー	吉原西上原405番地	
	〈謝苅〉		

☆080	謝苅マチューのビジュル	吉原謝苅原72番地	
081	アガリヌカー	吉原謝苅原126番地	
	〈伝道〉		
☆082	ヤマガマー	大村玉代勢原14番地	
☆083	村川・チンガー	大村玉代勢原14番地	
☆084	女井	大村玉代勢原14番地	
	〈玉代勢〉		
☆085	樹昌院	吉原西上原360－8番地	
☆086	長老山	大村玉代勢原14番地	
☆087	あらんも・土帝君	大村玉代勢原14番地	
☆088	タメーシヒージャー（樋川）	大村玉代勢原14番地	
☆089	チブ川ー	大村玉代勢原14番地	
	〈北谷〉		
☆090	東リ御嶽	大村城原369番地	ヨシノ嶽
☆091	西ヌ御嶽	大村城原383－1番地	城内安室崎之嶽
☆092	殿	大村城原369番地	北谷城内之嶽
☆093	グスク火ヌ神	大村城原383－1番地	
☆094	塩川（スーガー）	大村塩川原380番地	
☆095	カンタヌ井	大村玉代勢原14番地	
☆096	ウスク井	大村玉代勢原14番地	
☆097	スミムン井	大村玉代勢原14番地	
☆098	根神井	大村玉代勢原14番地	
☆099	マタジ	北谷西表原388番地	
☆100	北谷ノロ殿内	北谷2丁目19番2号	北谷巫火神
101	北谷根屋		
	〈前城村〉		
☆102	御風水神	大村玉代勢原14番地	
	〈北谷ヌメー〉		
☆103	アラファヌシー	北前安良波原132－2番地	
104	不動明	北前276番地	
105	ンブガー	北前276番地	

北谷町地形図

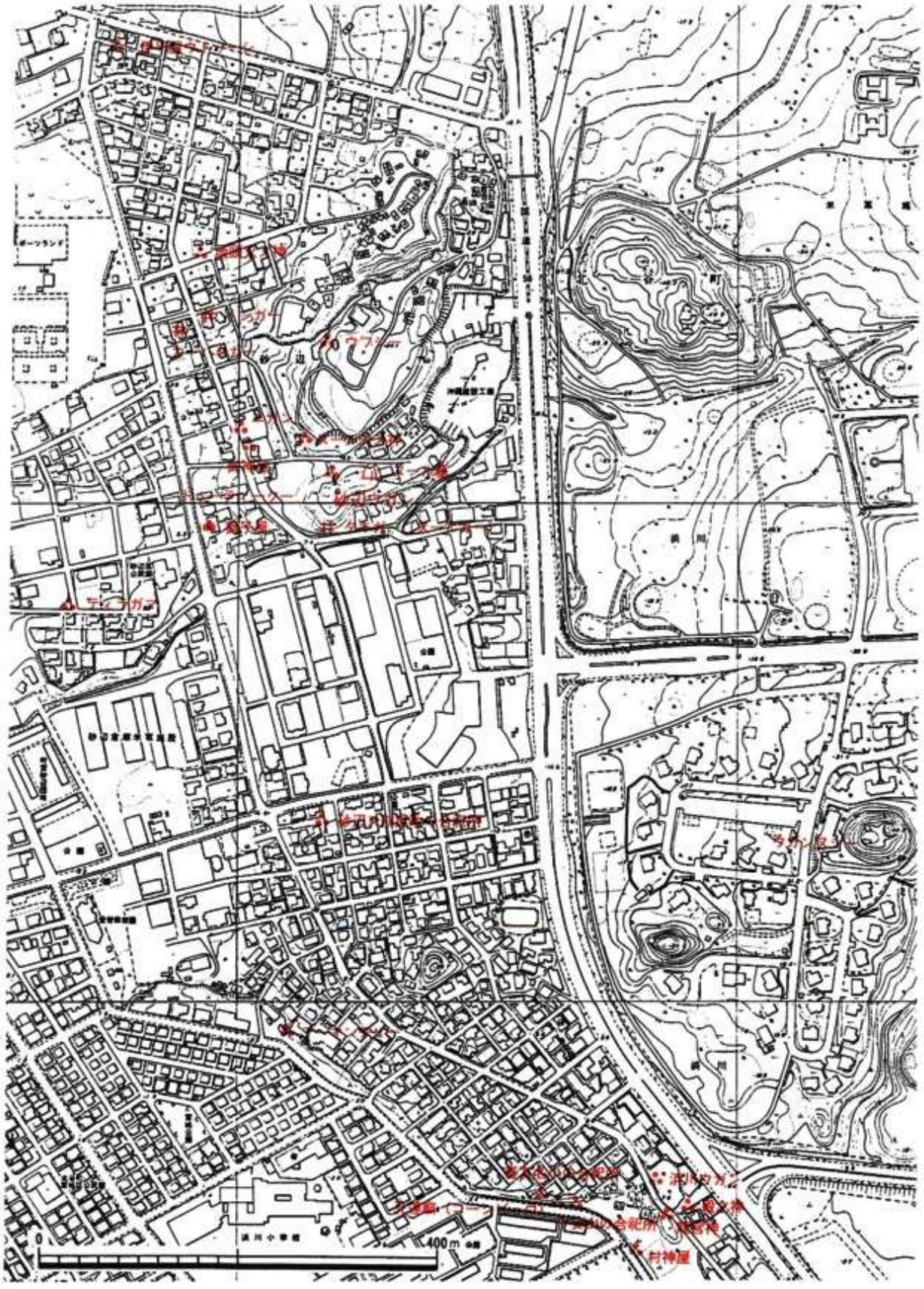


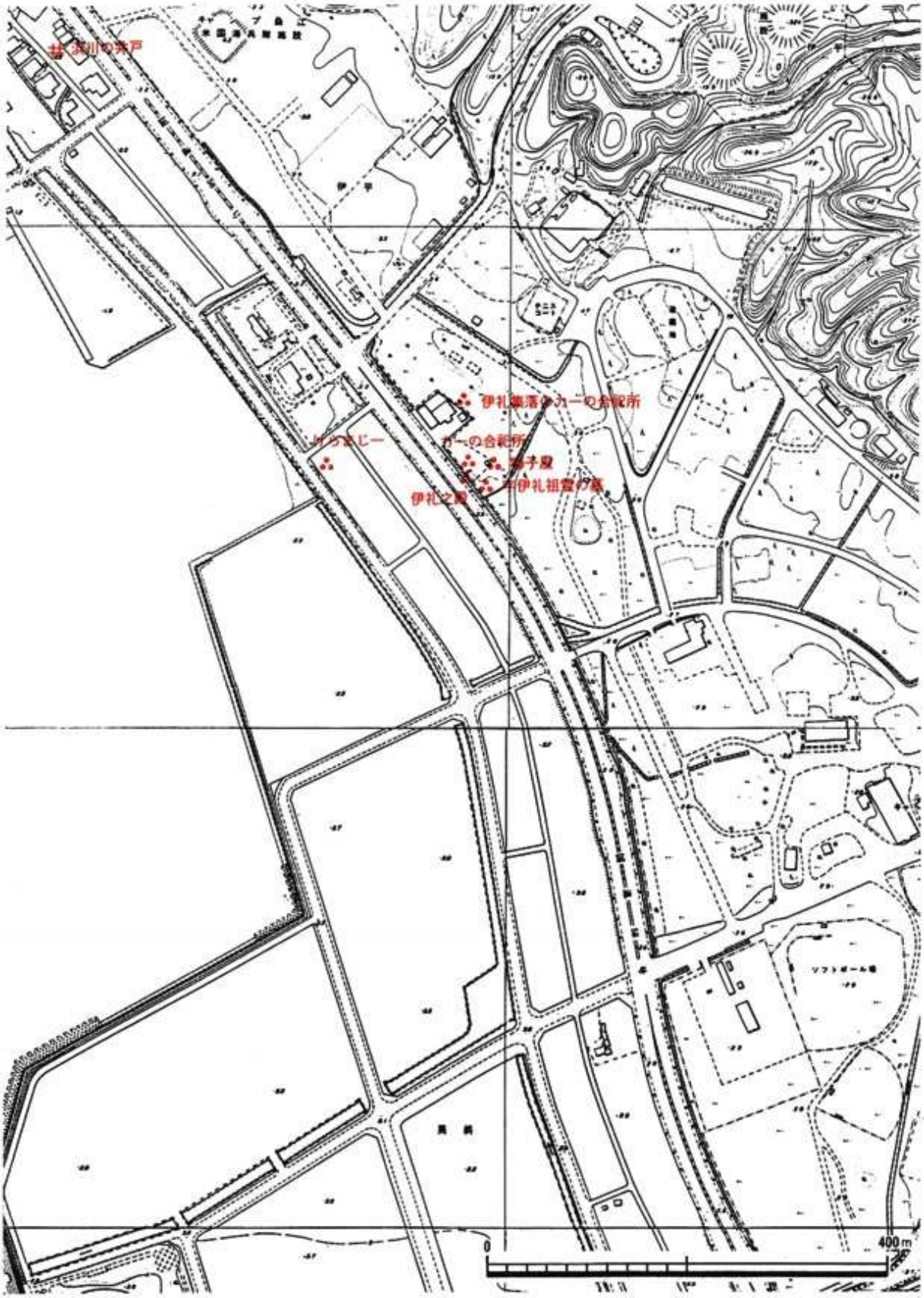
㈱沖縄アトラス
☎〇九八八―七六―七〇二七

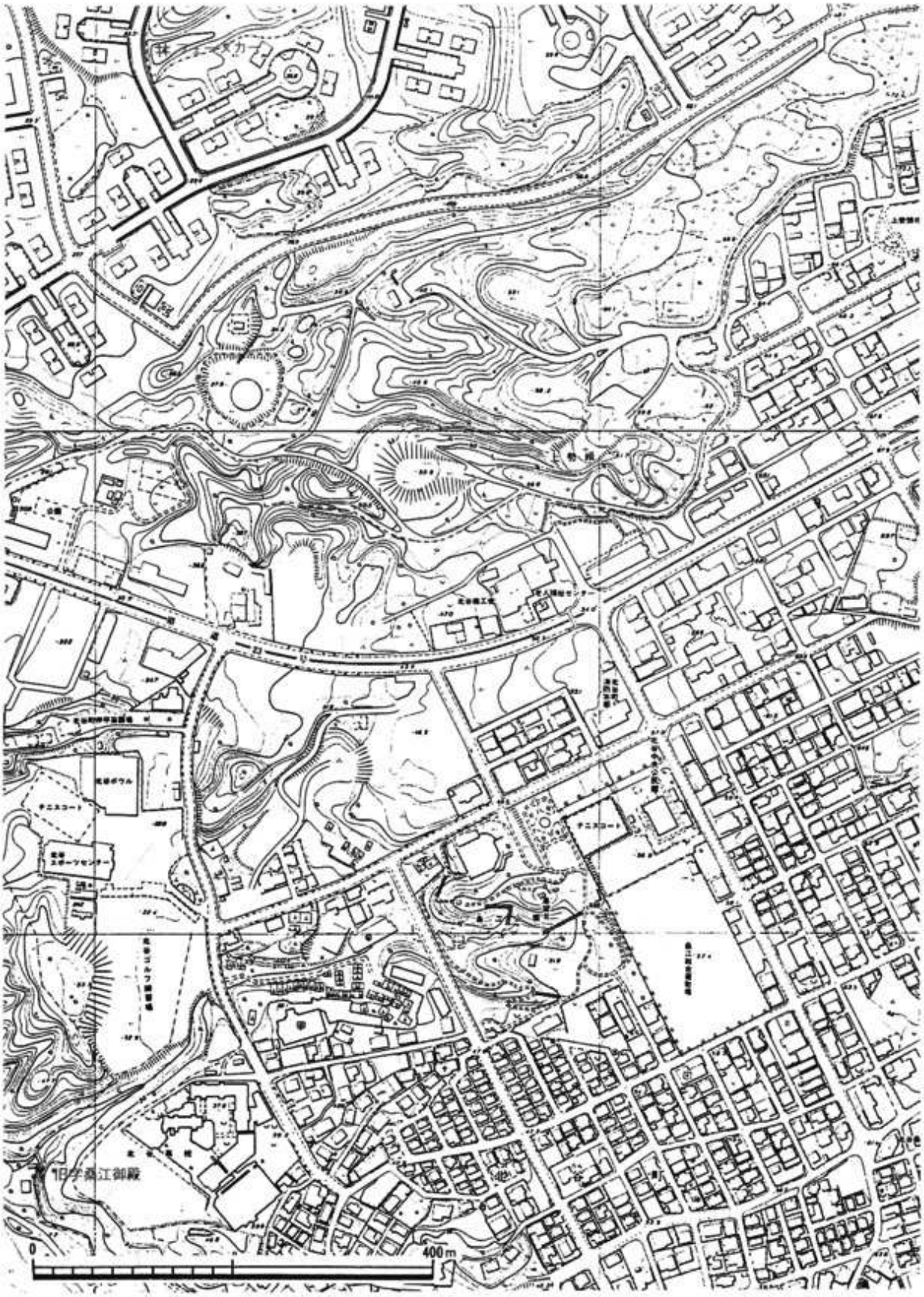


北谷町役場

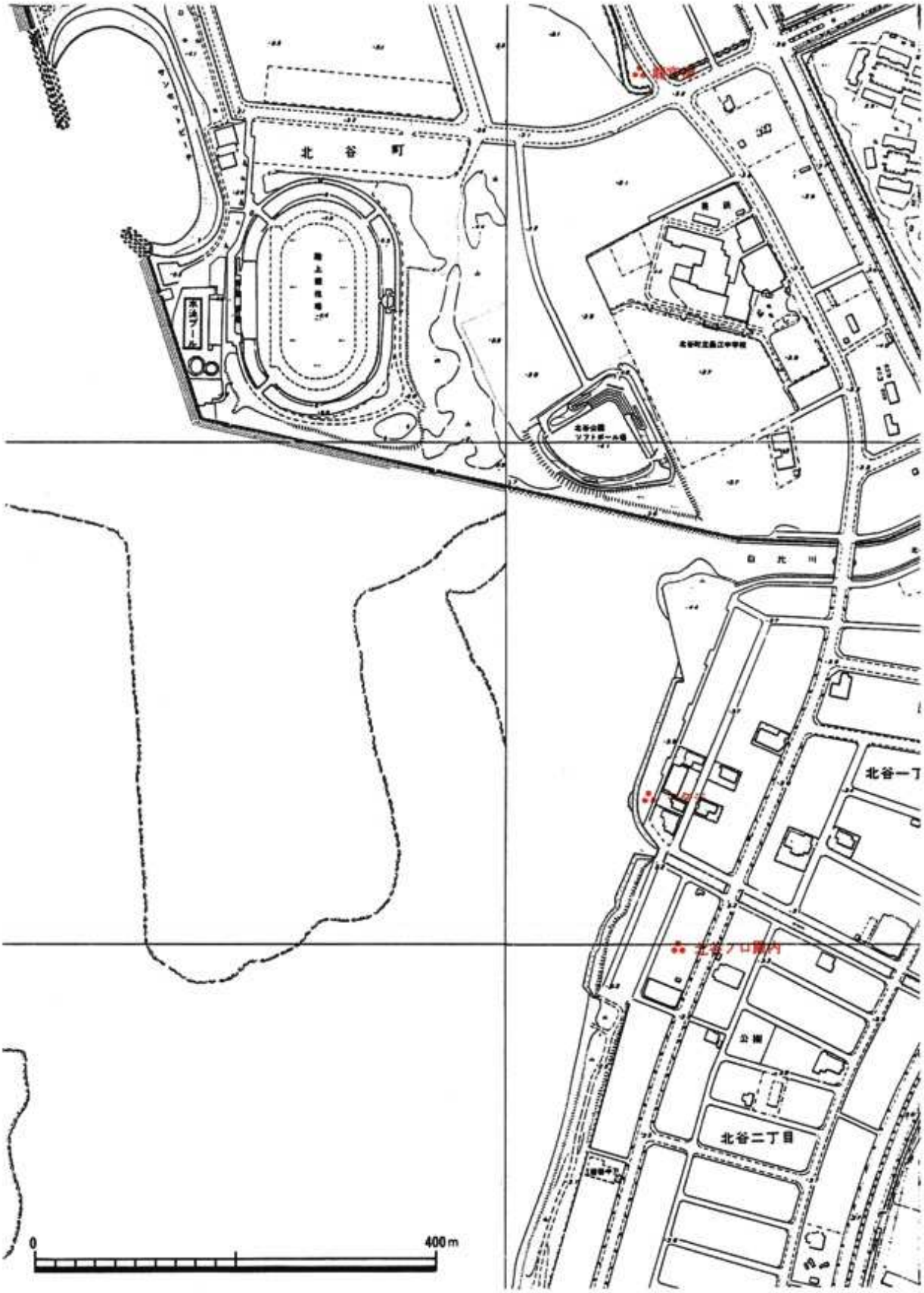
「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号）昭59沖複第36号」

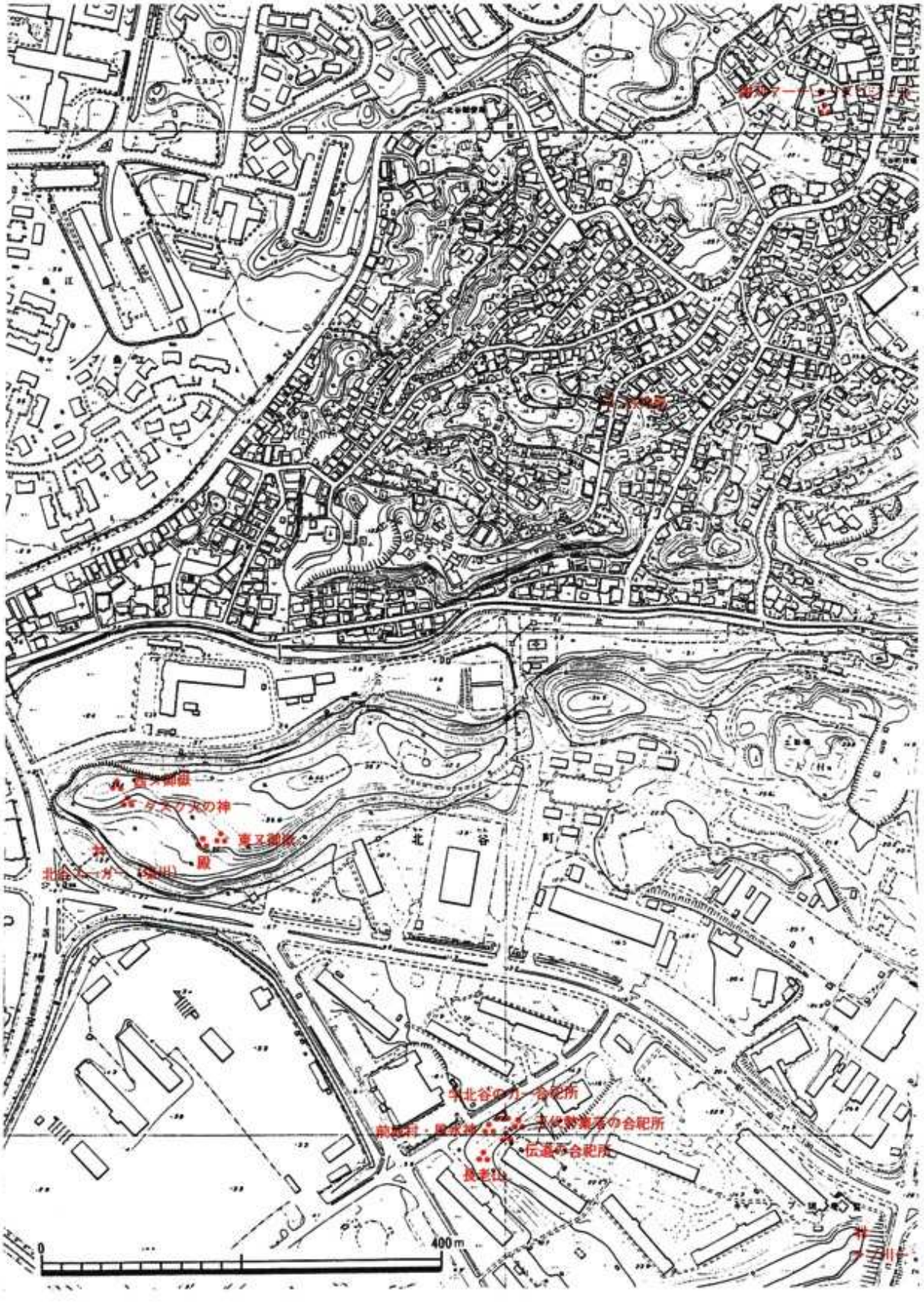

400m


廿 太川の井戸
伊礼集落のカーの会議所
カーの会議所
子屋
伊礼祖霊の家
伊礼之殿
400m

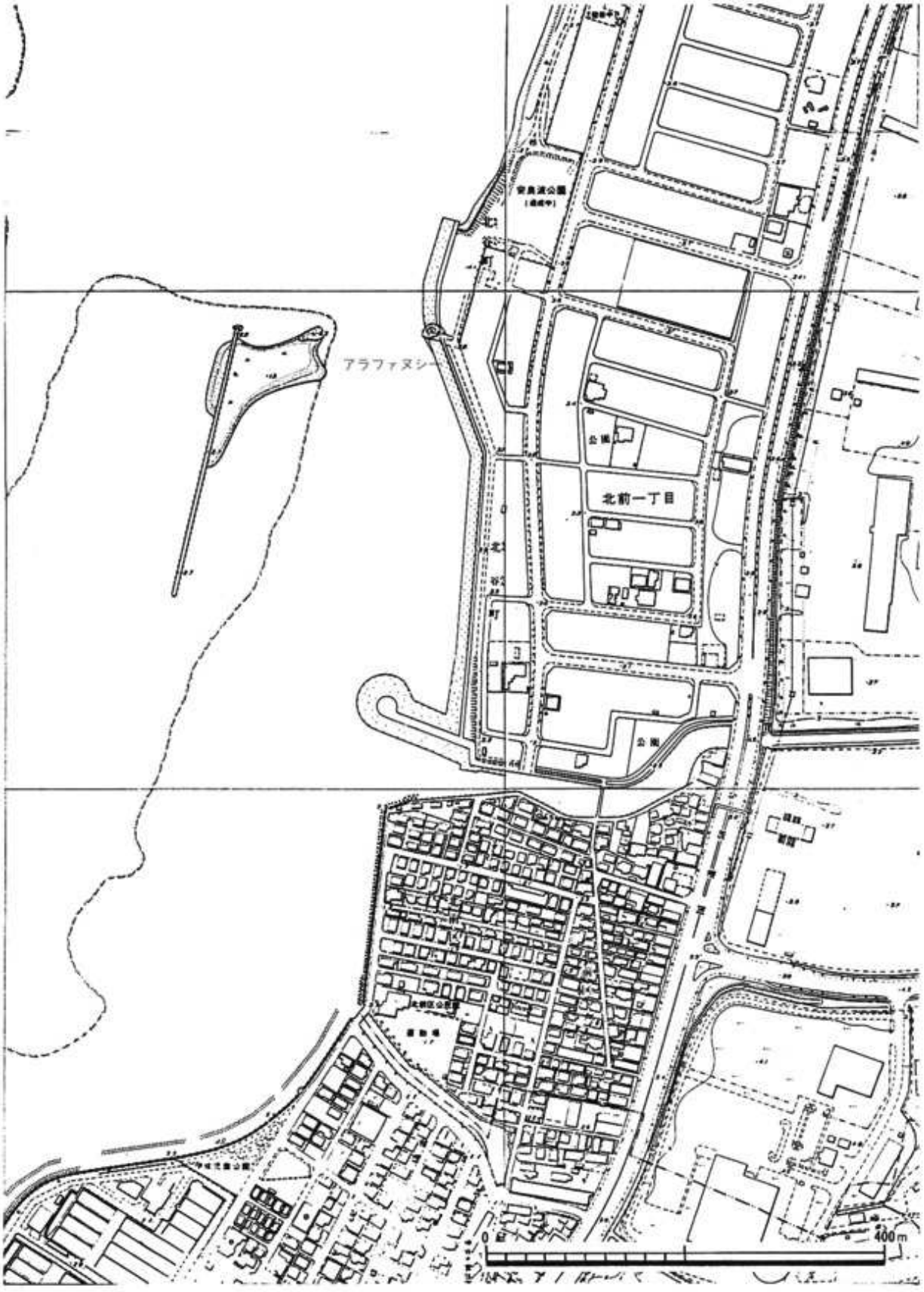

18字森江御殿
0
400m

沖縄市
0
400m


北谷町
白川
北谷一丁
北谷二丁目
0
400m


北谷
町
伝蓮の合祀所
400m

0
400m


アラファヌシー
北前一丁目
公園
公園
400m

15930

北谷町文化財調査報告書第15集

北谷町の拝所

発　行　北谷町教育委員会
1995年（平成7年）3月30日
北谷町字桑江586の12
電話（098）936－3490
印　刷　（株）南西印刷
製　本　那覇市首里石嶺町1の127
電話（098）884－4321